



# 漕 魂

23号

2001年

長崎大学医学部潜水部



# 卷頭言

我等が六歳を契る

絢爛の其の宴は実に過ぎ易し

然れども見ずや先達の嚆矢、

古りて猶燦然として輝き

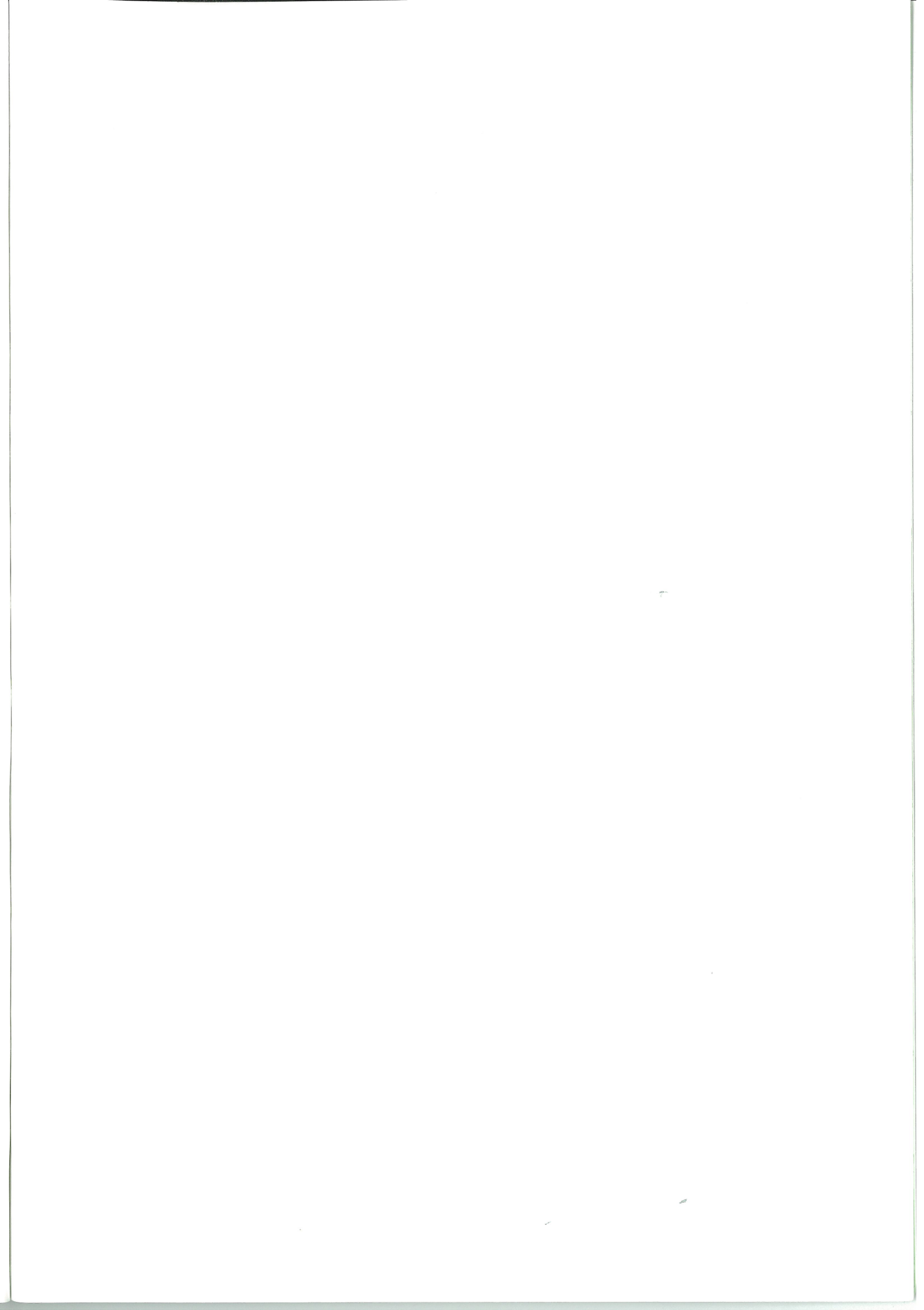
我等が矜持、久遠に逸せざるを

友達よ、然に明日の運命を嘆かんよりは、

此の虞美露ヶ丘に集いて、

去りては再び歸らざる

若き日の感激を謳わん。



## 漕魂の歌

作詞：今井雅之

作曲：岩谷怜

一、街を離れ ひたすらに

子々川の海へ 滑り出す

心地良い風 潮の薫り

キャッチロー キャッチロー

にじんだ汗が 流れだす

パドル行こう さあ行こう

二、水を切り 走る崎陽の

シュルルと放つ 快音は

朝もやの海に 似合っている

キャッチロー キャッチロー

心待つのは 安らぎの

オールメン イージーオール

オールメン イージーオール

三、スタート前の 緊張が

競り合う 気概と足蹴りに

ピッチを上げろ コックスの声

キャッチロー キャッチロー

燃え尽きんと 漕ぎ続け

ああ喜びの トップゴール

## 琵琶湖周航の歌

作詞・作曲：小口太郎

我は海の子 さすらいの

旅にしあれば しみじみと

昇る狭霧や さざ波の

滋賀の都よ いざさらば

松が緑に 砂白き

雄松が里の 処女子は

赤い椿の 森陰に

はかない恋に 泣くとかや

波のまにまに 漂えば

赤い泊火 懐かしみ

行方定めぬ 波枕

今日は今津か 長浜か

瑠璃の花園 珊瑚の宮

古い伝えの 竹生島

仏の御手に 抱かれて

眠れ処女子 安らげく



平成 12 年 4 月 24 日 九山 (富田浜漕艇場)



平成 12 年 3 月 23 日 卒業式

# 目次

## 〔勲二等旭日中綬章叙勲記念〕

叙勲によせて 尾崎 正若 1

## 〔寄稿〕

還つてきた万年筆 村上 文也 4  
 我が青春の故郷―子々川― 山近 史郎 6  
 ITとOB会 中桶 了太 7

## 〔特集〕

一年を振り返つて 田辺 孝大 9  
 新主将挨拶 崎元 晋 12  
 国体に出場して 田辺 孝大 13  
 関西朝日レガッタ体験記 近藤 学 16  
 スポーツマンの食事の取りかた 田浦 康明 17  
 蛋白質入門編 20  
 蛋白質実践編 21  
 新入生紹介 22

## 〔試合結果報告〕

第39回九州・山口医科学生体育大会 23  
 第53回関西・朝日レガッタ 24

第47回九州朝日レガッタ 24  
 第55回国体長崎県選考会ボート競技 26  
 第52回西日本医科学生総合体育大会 27  
 COX記 30

## 〔卒業にあたって〕

最後の雑感 及川 将弘 38  
 一言 森 創 39  
 N・I・C・O・L・E・ 魏 クアン ロン 40  
 雑感 松本 周平 42  
 ボートと酒 諸藤 陽一 43

## 〔部員雑感〕

ボート部への積年の怨みを今：  
 蓬萊 彰士 44  
 無題 青山 英和 44  
 n. p. 西條 知見 44  
 こころ 高木 理博 45  
 部員雑感 田辺 孝大 45  
 回顧 渡辺 庸平 46  
 「四半世紀・・・」 猪狩 圭介 47  
 雑感 小河原 大樹 47  
 雑感 崎元 晋 47  
 21世紀の決意 田浦 康明 48  
 雑感 山口 仁平 49



今年の目標

近藤 学

50

故障について

末下 雅也

51

2001年俺物語

豊田 啓介

51

雑感

山道 忍

52

||ビッグニュース!!医学部:

吉武 記一

52

僕の誕生日

和佐野 喜也

53

雑感

高田 潤

53

雑感

荒木 孝太郎

53

オフスプ

夏田 孔史

54

半額の罫

冬野 誠也

54

「その他」

長崎大学医学部漕艇部OB会決算書

長崎大学医学部漕艇部OB会決算書

55

長崎大学医学部漕艇部部費決算書

長崎大学医学部漕艇部部費決算書

56

長崎大学医学部漕艇部OB会会則

長崎大学医学部漕艇部OB会会則

57

長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿

長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿

58

長崎大学医学部漕艇部OB会賛助会員名簿

長崎大学医学部漕艇部OB会賛助会員名簿

59

長崎大学医学部漕艇部役員名簿

長崎大学医学部漕艇部役員名簿

60

長崎大学医学部漕艇部OB会一般会員名簿

長崎大学医学部漕艇部OB会一般会員名簿

61

長崎大学医学部漕艇部現役部員名簿

長崎大学医学部漕艇部現役部員名簿

66

編集後記

編集後記

67

特別寄稿

## 長崎大学医学部漕艇部前顧問

尾崎正若名誉教授

勲三等旭中綬章叙勲記念

# 叙勲によせて

尾崎 正若

歴代の長崎大学医学部ボート部の顧問、須山、高久両名誉教授は既に叙勲を受けておられますが、今回私に順番がきました。

生あるを一入嬉しく思いけり

吾は今 皇居 春秋の間にて

平成十二年秋の叙勲に際し勲三等旭中綬章を授かりました。十一月十日国立劇場の伝達式に臨み、ついで皇居に導かれ拝謁となりました。

思うに今回の授章は決して私一人のものではなく、これまで御指導を賜った先生方をはじめ特に長崎大学の第二薬理学教室創設以来懸命の努力を重ねた研究者諸君によって

成果を上げることが出来たお陰と思っています。

昭和二十五年熊本医科大学を卒業し、少なからぬ紆余曲折を経て、結局は熊本大学第二薬理（瀬辺恵鎧教授）にお世話になったことが永年に亘る薬理学の教育・研究の発端となりました。

心筋成分に関する実験で蛍光性物質がトピックであった頃、酸性で蛍光性を示すトリプトファン由来のセロトニンについて活発な研究をしている米国立心臓研究所（NHI）に連絡し、臨床生化学部門の研究員になるチャンスが訪れました。この実験室でセロトニンやカテコールアミンを蛍光的に測定し、これらアミンを生成する芳香族アミノ酸脱炭酸酵素の阻害物質を探索する中で、特にαメチルドーパが生体内でもアミンの生成を抑えるのみならず、臨床的に高血圧症の血圧を下降せしめ有効に作用することを発見し、一同で歓声を上げました。既にレセルピンの降圧作用機序は組織のアミンを枯渇することによると発表され注目を惹いてもいたので、薬物投与時の動物の血圧変動と組織アミンの消長との相関関係を追究する必要があると痛感していました。

帰国後、名市大医薬理（助教教授）に赴任し、京都大病理学教室（岡本耕造教授）で名市大卒の青木久三 大学院生が連日ラットの血圧を測定していることを知りました。しかも彼が偶然出会った高血圧の雄のラットから、無処置で遺伝的に高血圧を示す系統の分離に成功し、高血圧自然発

症ラット(SHR)と命名されていたのであります。そこで、このSHRは薬理の研究上にも極めて有用な疾患モデルの動物であると考え、分与して戴くことにしました。このSHRとの出会いが私の研究の後半生の基になったと云つても過言ではありません。

高血圧の成因を探る目的で先ずSHRの臓器組織のアミン量の定量を行ったところ、SHRの副腎のカテコールアミンが正常血圧対照ラットの約二倍量あることが判りました。往時エピネフリンとノルエピネフリンとの分別測定が蛍光法では困難な面がありました。後に、長崎大学で、高速液体クロマトグラフを導入し明確に両者の分別測定を可能にしました。

昭和四十八年から、長崎大学に新設された第二薬理教室の初代教授として十六年間薬理学の教育・研究に埋没しました。αメチルドーパの代謝物であるαメチルノルエピネフリン量の中枢に於ける増加が最も血圧の下降度と並行している事を見出し、中枢のカテコールアミンが生理的に血圧制御に関わっている事実の一端に触れる事が出来ました。

臨床的に用いられている既知の降圧剤は総てSHRの血圧を下降させますが、降圧剤を用いる究極の目的は、高血圧の持続により二次的に惹起する病変の抑制にあるので、実験治療的にSHRの血圧をコントロールし病理組織学的変化の軽減度と平行して観察しました。その結果、脳卒

中易発症SHR(SHRSP)も血圧上昇さえコントロール出来れば例外無く脳卒中を予防し凡そ二年の寿命を全うする事を確認しました。心臓肥大、腎萎縮その他血管変化も軽減されますので開発中の薬物の評価が可能になった訳であります。そこで本邦で古来伝承の柿渋のSHRSPに對する効能を確かめてみました。SHRSPに對して降圧作用は認められないのに脳卒中の発症を有意に予防すると云う一見不可解な現象に遭遇しました。この作用機序を暗中模索する中で柿渋のみならず緑茶、一部漢方方剤にも類似効果があり、何れも共通して強力に活性酸素(フリーラジカル)を消去することが判明し、昭和六十三年国際フラボノイド学会(ストラズブルグ)で発表しました。その後、この活性酸素は多くの領域の関心を呼んでいることは衆知の通りであります。

昭和三十九年日米神経化学カンファランス(大磯)で私が初めてSHRを米国に紹介し、大きな反響を呼びました。昭和四十六年には京都で岡本教授が第一回のSHR国際会議を主催され、その後三年毎に開催されています(本年第10回ベルリン)。一方、私達が創設した国内のSHR学会は本年十月に第三十七回目が長崎の地で開催されます。私が長崎大学第二薬理を開講し、大学院の一期生として入学した丹羽正美 現長崎大学教授が会長として主催されることは、この上ない喜びであります。

終わりに私の生化学の恩師 故加藤七三先生は「あらら

ぎ」の歌人でもありました。先生を偲んで開かれた追悼歌  
会で私は次の作を詠みました。

化学しつづうたを詠ませし先生の

いよよしたわし フラスコの花

## 尾崎正若先生御略歴

大正12年7月 札幌に生まれる  
昭和25年3月 熊本医科大学卒業  
昭和29年5月 熊本大学医学部助手（薬理学第二教室）  
昭和32年6月 学位授与（医博）  
昭和32年10月 熊本大学医学部講師（薬理学第二教室）  
昭和33年4月 米国立心臓研究所（NHI）に留学  
昭和35年6月 名古屋市立大学医学部助教授（薬理学教室）  
昭和48年3月 長崎大学医学部教授（薬理学第二教室）  
平成1年3月 長崎大学医学部教授定年退官  
平成1年5月 長崎大学名誉教授  
平成12年11月 勲三等旭日中綬章を叙勲される



尾崎正若先生叙勲記念祝賀会にて

## 還つてきた万年筆

村上 文也（S20年卒）

手許にある岩波国語辞典によると、「万年筆はペン軸の中に入れたインクが書くにつれてペン先に伝わり出る仕組みの携帯用ペン」と説明されている。万年筆という造語は長い間インクを補充しなくても使える筆という事からきているのであろう。「百貨店」などと一緒に文明開化当時に作られた言葉で、その後「百貨店」は「デパート」という語に呼びかえられたが、「万年筆」は今でも依然として「万年筆」のままである。万年筆とは、言いえて妙な見事な造語で、その後も之に代わるものに誰も思い至らないのである。

古い話になるが、私が旧制中学に入学したときは、新しい制服、制帽以上に親戚の人からお祝に頂いた黒軸のパイロットの方が嬉しかった。腕時計と共に、中学生になって大人の社会に踏み込んだという実感を味わった事を今でも覚えている。それまで鉛筆だけの小学生にとって万年筆は憧れの筆記具であった。

その後、旧制高校、大学での計七年間の学生生活では万年筆が私の唯一の筆記具であった。

戦後、ボールペンが新しい筆記具として登場し、カジュアルで機能的な事で急速に普及した。製薬会社からのサービズ品としていつも手許にあるので、いつとは無しに万年筆との縁がぎれるようになった。ボールペンも色々の会社の物があり試行錯誤の結果、アメリカ製のcrossがスマートで又書き味も抜群に優れているので気に入り今日まで愛用してきた。

最近になって年のせいも少し長い文章をボールペンで書いていると、手のたるさに気がつくようになった。そこで本当に久しぶりに万年筆を使ってみる事にした。万年筆は少し高価だったが、前から欲しいと思っていたペリカンの緑縞800（中字）を求めた。

私の敬愛する国文学者、板坂元氏の「万年筆」というエッセイの中での、「良いペンの書き味はセクシーで若い女性の肌の様な滑らかさだ。ふと形容しがたい快感が背筋を走る様なところがある」という文章が私の万年筆党復帰へのきっかけだった。

約三ヶ月間自分の書き癖をつけて滑らかに走り出す事を確かめて、一昨年、昨年と年賀状の宛名、住所書きに紙面を滑るペンの感触の喜びを堪能した。

外山滋比古氏によると、アメリカのジョークに「万年筆とワイフは人に貸すな」というのがあるそうだが、私にも

その意味が理解できる様な気がする。

私も高齢になつて老化を少しでも防ぐために手紙や原稿を書くのに精をだし、万年筆を今後大いに活用したいと思っている。

今年私宛に届いた年賀状は263通で、その中で住所、宛名書きに使われた用具は、ボールペン・サインペンが138通で最も多く、次いでワープロ90通、毛筆29通の順で、万年筆はわずか6通(2%)で完全な少数派である。

然しワープロで打たれた書類に万年筆で署名する光景はよく目にするように、万年筆はフォーマルな筆記具として大切なもので、国際条約の調印式には名脇役として登場する。サンフランシスコ講和条約調印時、吉田茂首相とアメリカ全権大使アチソン氏との間でかわされた文章にはシェファの万年筆が使われた。東西ドイツ統一条約調印時にはモンブランが、アメリカとロシア間でかわされた第二戦略兵器削減条約の調印式にはパーカーが用意された。そのときのペンキヤップには核ミサイルのメタルと溶け合わせた素材が使われたという。

万年筆は一度忘れかけられながら再び咲いた筆記具の王と言えよう。

# 我が青春の故郷・子々川

山近 史郎（S57年卒）

早いもので卒業して20年が経とうとしている。日常は大学病院の仕事に明け暮れゆとりのない生活を送っている。たまの休みには下手なゴルフでリラックス(?)することがある。最近では、琴海方面でラウンドすることも増えてきた。空港カントリー、パサージュ琴海、ペンシユラゴルフ倶楽部など、我々が現役部員の時には全くなかったもので、半島の緑を切り開いて作られており、一部住民の反対もあったように聞いている。これらのコースを廻つてみると、琴海の素晴らしい眺めに改めて感心させられる。現役の頃は、練習に明け暮れていたもので、今ほどは感じていなかったが、ボート部のOBとして殊更強い愛着を感じられずにはいられない。皆、年をとり長崎の町の風景も変わってきているが、子々川の景色は昔のままですっきりと静かに存在している。眺めながら感じるのだが、不思議ときつかった事がすべて楽しい思い出に変わっている。きつかった昔があるから、今の自分があると思うと、子々川に感謝しないではいられない。

小生の同級生は倉富、末永、北川、潮山各氏で皆、開業し第一線で活躍されている。教養時代、重い重いナツクル、多良、に鍛えられた仲間であり、多良の会、なるものを

結成し、2年前博多で再開した。皆多忙であるが今年是非第2回を開きたいものである。

最近では合宿所も立派になり、新艇も順調に購入できているようであり（OBのお陰です！）、ボート部としては益々恵まれた環境になっている。更に嬉しいことに、村上ゼミが復活したことである。我々の学生時代は、村上先生の診療所で行われ、大変、先生に御世話になった次第である。現在は井上病院会議室で月一回開かれており、先日参加させて頂いたが、村上先生、井上先生、森本先生、永山先生も出席されており、小生も大変勉強になった。是非、OBの先生方も昔を思い出し、参加されてみては如何でしょうか。

現役部員とは病室実習でお目にかかるが、皆真面目に取り組んでいる。やはりハードな練習をこなしてきているだけあって、ルーズな学生は殆ど見当たらないのは嬉しい限りである。

このようにボート部とは学生時代のみならず、今でも先輩、同輩、後輩と色々な所で繋がりを保っている。小生的心には昔のままに静かに美しくどっしりとした子々川が脈々と生きている。

# ITとOB会

中桶 了太 (H7年卒)

Information technology(IT)が注目され始めたのはいつ頃でしょうか?ここ、数年のパーソナルコンピュータの普及には目を見張るものがあります。

数年前には夢であったことも、今日ではインターネットを利用することで可能となったことが多くあります。例をあげると文献検索であり、以前では考えられない様なスピードと情報量で検索可能となり、雑誌によつてはインターネットを通じて日本に届けられるよりも前に読むことが可能となっています。またネットワーク関連の技術も日進月歩であり、パソコンを持ち歩き、料金さえ気にしなれば出先からインターネットに接続し、必要な情報が必要な時に場所を問わず引き出すことが可能となっています。また、扱うことの出来るデータ量も多くなつており画像のみならず動画のやり取りも可能となりつつあります。インターネットの可能性と将来展望について新聞や雑誌で大きく取り扱われています。また、企業や集団においてネットワークは重要な無くてはならない技術であり、殆どの広告の片隅にホームページのアドレスが掲載されています。このような情報交換技術であるインターネットの普及と共に

日常的に使われるようになったものに電子メールがあり、今では電話に次ぐ身近なコミュニケーションの手段となつていきます。

この電子メールは、即時性では電話には叶いませんが手紙よりも早く相手に届きます。郵便ポストに投函する必要もないので切手を買う手間も張り付ける手間もありませんし、なにより投函することを忘れることもありません。ジャングルの奥地でもモンゴルの砂漠の真ん中であつても、インターネットに接続している限り世界中の何処に居てもメールを受け取ることが出来ます。電話の場合、相手を電話口呼び出さなければならぬため、親しい仲でもなければ仕事以外の用件で電話をかけることは少々気が引けるものです。一方、電子メールは相手が自分の都合の良い時間に読むことが出来るためなのでしょう、電話以下手紙以上の用件を書くことが多いように感じます。また、手紙と同じく文章によるコミュニケーションなので予め推敲出来るため、特に外国人と連絡をとる場合には便利です。電子メールを使うことで、今まで疎遠になりました。た古い友人と連絡が取りやすくなりました。聞く所によると、同窓会をインターネット上で行う試みもされているようです。これらインターネットの特性は漕艇部OB会の活動にとつて便利です。ある時奥歯につまつたように気になる、ボート部の試合結果をインターネットHP上で知ることが出来れば便利ではないでしょうか長崎から離れていらつ



しやる先輩先生方に、クラブの現状をお知らせすることも出来ません。更に、電子メールによる御案内により通信費の節約にも役立ちます。

平成12年度は私の個人的な試みとして、会員名簿上で電子メールアドレスを公開している先生方に試合結果や会合の御案内を送ってみました。数件お返事を頂きましたが、その中には遠く米国で研究中の先生からお返事を頂きましたし、ミスに対してお叱りのメールも頂きました。このようにレスポンスを頂けることは、今までは一方通行になりがちだったOB会の運営に意義があることだと思えます。

一方で、完全に電子メールに移行してしまうことに、まだまだ抵抗があります。インターネット有無による会員内での情報格差はあつてはならぬ事ですし、使いこなすためには様々な事態に対して対策が必要であると感じております。

このようなインターネットを「漕艇部の円滑な運営の為に、精神的、物質的な援助を行い、あわせて部員の身体の錬成ならびに人格の陶冶を図り会員相互の親睦をはかる（会則第三条）」ために活用していきたいと考えております。

お問い合わせ等ございましたら、このメールアドレスまでお願いいたします。

nakaokke@net.nagasaki-u.ac.jp

# 一年を振り返って

前年度主将 5年 田辺孝大

去年(99年)のシーズン最後の西医体では、準決勝敗退という自分でも思いもよらぬ結果で幕を閉じた。出場できなかった一昨年の西医体の分まで結果を残す必要があっただけにとてもがっかりしてしまった。

9月から主将となった私は、前年の反省を踏まえ、勝つためにすべきことをもう一度見直してみた。Aクルーに関して言えば、前年のAクルーと比べて変わったのは諸藤さんの代わりに近藤が加わったという点だけで、COXも含め4人はそのままAクルーとしてやっていくという、ある意味勝ちを狙う上では好都合であったわけである。しかし逆にいえば勝てなかった人間が4人残るわけでもあり、しかも皆決して手を抜いていた訳ではなく努力していたので、そのことを考えると手放しに喜べる状況ではなかった。

さて、今年度の活動について練習を中心に簡単に振り返ってみたいと思う。

## 『オフシーズン』

本当にこれはここ何年間と言われ続けている事であるが

我々長大のボート部員は体の線が細く華奢な者が多い。それは最大筋力というか瞬発力の弱さを意味する。つまりエールゴで言えば30間漕などは、割とよく漕ぎ込んでいるせいもあって他大学と比べてもそこそこ漕げるのだが、2000mや、1000m(特に1000m)となるととたんに他大学に負けてしまうのである。スタートで出られそのまま追いつく事ができないというのもこのところ起因しているように思った。従ってこの点に着目して練習メニューを組んだ。

具体的にはボートと言う競技に一番必要である下半身の強化を徹底した。そのためエルゴや、Runに関しては一時的に前年までと同じような感覚で行なったが、下半身に関する練習メニューとして新たに坂道ダッシュ、中距離走を加えた。まず坂ダッシュについてであるが、足の速さが同じぐらいのものを二人一組にしなるべく競争意識を出させるようにした。またこれはRunとして松山の陸上競技場やグラウンドを15週程度走った後に行なったため心肺にも相当の負荷をかけることができた。中距離走は400m、600mぐらいの距離を全力で走るといふもので、脚がパンパンになり乳酸がたまつて痛かったことを覚えている。また、スクワットに関しては今までつぶれてしまう事を恐れ自分のもつ力よりも軽い負荷でしか行なえないことが多かったが左右両サイドに補助役をつけることで各自が限

界の重さで行なえるようにした。そのさい補助に回っている者が掛け声を掛けるようにしやっつてるものを奮い立たせるようにもした。

練習回数に関しては昨年と大きく変えなかったが休息の取り方に関して少し変えてみた。昨年までは、エルゴならエルゴ、ウエイトならウエイトと違う日に行なっていた。今年からは、エルゴのあとにウエイト、Run、坂ダッシュのあとにウエイトと一回にまとめて行い、かわりに水曜と土曜を完全に休日に当てるなどした。少々きつい練習をこなすぶん疲労がたまり過ぎてオーバーワークにならないようにしたのである。

### 『シーズン』

Aクルーに関しては9月の時点で組んでいたのでBクルー以下のクルーをエルゴのタイムトライアルの成績を元に組んだ。シーズンに入ってから練習に関しては回数、内容ともに完全に各クルー自主性に任せる事にした。ここではAクルーの練習に関して前年と変わった所について述べてみる。

前年よりも少し乗艇時間を少なくし集中力を切らさないと言う事にこだわった。具体的にはライトパドルで続けて行なうのは30分程度にして、30分×2本、30分+2

0分というようにしその代わり蹴りの強さ、漕ぎの正確さといったことがおろそかにならないようにした。また、クルー全体でどういった漕ぎを目指すのかを確認し、蹴りのタイミングなど各自でバラバラにならないように注意した。

どうも艇が進まない時や、バランスが取れないなどあれこれ考えても分からず行き詰まった時は技術練習やペア漕ぎを積極的に行い原因解明に努めた。

以上が前年に比べて特に気を付けた点であるが、前年同様、毎週末には、氏家コーチに見ていただき、自分たちではなかなか気付きにくい点などいろいろと教えていただいた。またビデオを撮映し自分の漕ぎを外からみることでコックスやコーチから言われた事がどういうことなのか理解できるようにした。Aクルーに関して言えば、シーズン途中でのメンバー交代や大した怪我もなく無事シーズンを乗り切る事ができたが、Bクルー以下に関してはシーズン途中でクルーの組み直しがあつたり、また色々な理由でたびたび練習が中止になったりする事が多かった。

### 『反省』

オフシーズンでは、練習へ参加し与えられたメニューをこなすと言う事は皆やっていたように思うが、少しでも体力をつけよう、エルゴで良いタイムを出そうと自分の限界

まで頑張るものは少なかつた。ただ漫然とこなしているだけでは、伸びるものも伸びず各自のポテンシャルを最大限に引き出す事はできない。もちろんそのポテンシャルに個人差はあるが、そんな事を言い出すのは、全くナンセンスな話でありそもそも各自が自分のポテンシャルを最大限引き出そうと努力する事に意義があるのだと思う。原因のひとつとして部内の競争意識の希薄さがあり、これはここ何年間言われつづけていることだ。ほんとに強い部を目指すのであれば皆が一つでも上のクルーに乗ろうと競い合っているぐらいでないと駄目である。私も反省しなければならぬがAクルーや、それに乗るものが下のものにとつてもっと魅力あるものになる事が必要であろう。

シーズンにはいつてからは、各クルーがバラバラに行動するため部としての連帯感が薄れてしまった。特にAクルーに乗っていると合宿に入っている事もあり他の部員と接する機会がへり、新しく入部した1年生の面倒もあまり見る事ができず、これは何かいい方法を考えた方がいいかもしれない。

また前述のようにBクルー以下では色々な理由で練習できない事が多かつた。致し方ない理由も多いがボートと言う競技ははなんだかんだ言っても乗艇練習が大事であり、間を空けるとまた元に戻ってしまい取り戻すのにしばらくかかるものであるから、なるべくのことなら練習を潰さない努力、気構えが必要だろう。

向かえた今年度(2000年度)の西医体では、ダブルクルー(渡辺・豊田)が銀メダルをとってくれ皆を喜ばせてくれたが、Aクルーは最終的に決勝5位と言う結果に終わった。4+決勝に進んだ6艇のうち3位から6位までの実力はかなり拮抗しておりメダルはすぐそこにあつたように思う。しかし1位、2位の滋賀医大、岡山大とは予想以上の実力差があり、10回やっても1回も勝てなかつただろう。

この結果をどう受け取るかはそれぞれであろうが、少なくとも強い長崎大学の復活と言える程のものではない。ただ今年、西医体で決勝に残ったメンバーがふたり残っておりその経験をいかして、私が結局最後まで手にする事ができなかつた西医体でのメダルを手にして欲しいと思う。

# 新主将挨拶

主将 4年 崎元 晋

昨年度我がボート部は、Aクルーが決勝5位、総合4位という結果でシーズンを締めくくりました。この結果は長大としては決して満足いくものではありません。しかし2年前の不祥事を乗り越え決勝進出を果たし、さらには9月に田辺さんが久しぶりの国体出場をはたしたというのは、これからの長大ボート部が復活してゆくのに十分な材料です。

こういった状況で自分らが幹部になるにあたってまず課題となるであろうことは、部員の減少の問題です。昨年の勧誘の失敗の教訓を踏まえ、今年は新入部員自体は多かったのですが、その中の再受験生がどうしても部を続けていくことができなかつたのは大きな問題でした。いくら今は運動部離れが進んでるとはいえ、部員の数自体が少ないといままでの長大ボート部の性質を維持していくのは難しいはずで、今年度の勧誘は例年にない程の特別な体制で望もうと思っています。

もうひとつはAクルーのみならず、Bクルーにも勝ちにこだわる姿勢をつけることです。一昨年度は及川さんがBクルーに乗ることにより例年になく強いクルーであり、その当時のようにBクルーが元気であれば部全体が盛り上が

るのは間違いありません。後々の勝利を見据え、部の層を厚くするためにこの点をどうにかてこ入れしていきたいと考えています。

なおAクルーについては、もちろん、近年たまっている西医体の鬱憤をはらし久々の朗報をとどけることができたいと思います。そのためにはそのクルーだけでなく、部全体が一体となつてひとつの目標に向かっていくことが大事であると思うので、そのように部をしつかりまとめていくつもりです。

# 国体に出場して

5年 田辺 孝大

例年は6月の県漕で勝ったクルーが国体または九州ブ  
ロック予選に参加できていたのだが、今年（2000年）  
は国体選手の選抜基準がエルゴメーターの測定結果で決め  
られることとなった。即ち12月と2月の2回、県の漕艇協  
会によるエルゴメーター、2000メートルタイムトライ  
アルが行われ、単純によいタイムを出した者を、上から順  
に選ぶという方法だった（実際には、測定を行っていない  
ものも実績を残しているという理由で選ばれていたのだ  
が）。ここで私は6分台を出し成年男子4十のクルーの一  
人に加わることができた。

迎えた国体では1回戦は5位で敗復にまわり、敗復で1  
位上がりしたものの、2次予選では4位と惨敗。準決勝進  
出との間には、少なからず距離があり国体のレベルの高さ  
に圧倒された。これは3年生の時インカレに出場した時と  
同じだが、そこには自分が今までやってきたボートとは違  
うボートがあると言う感じだった。

例年国体で思うように良い成績が残せていない長崎選抜  
の現状を打破すべく今回のような選抜方法がとられたそう

だが、従来のようにクルー単位で選抜するのと、各クルー  
からの選抜メンバーから選ぶのでは少なからず違いがあ  
ると思う。今回のような方法で選ぶと個人個人の能力（特  
に体力）が高いため上手くかみ合えば、それ相当の艇速が  
期待できるが、その反面クルーとしてのまとまり、ユニ  
フォームミティーが取れず個人の能力を活かしきれない、ま  
た各自の都合を合わせるのは思っていたより大変で大した  
練習がこなせない（今年は、全てで10回ぐらいの乗艇練習  
が組めた程度だった）などの欠点がある。先ほども言った  
が長崎県のボートの競技レベルは決して高いとは言えず、  
国体で成績が残せていない。成年男子4十で言わせてもら  
えば決勝はおろか準決勝進出も程遠い。しかし選抜メン  
バーで漕ぎ込むというのは、仕事、学校の都合などを考え  
れば現実的には無理であり、また、県漕で勝ったクルーで  
漕ぎ込んだとしてもある程度のポテンシャルを持ったク  
ルーで無いと国体で勝つことは難しい。そう考えると、ど  
ちらの選抜方法を採るかと言う事よりも、いかに長崎県全  
体の競技レベルの底上げを図るかということの方が重要で  
あるように思う。

さて、今年の国体クルーのメンバーについて、触れてみ  
たいと思う。私（BOW）以外では園漕会からコックス一  
人と漕手が2名（3番、2番）、あとは鹿児島大学出身で現  
在、長崎三菱勤務の漕手が1名（整調）であった。整調は  
鹿児島大学時代、インカレ8十で4位、整調として臨んだ

国体で5位になっており、その実績からエルゴ大会には出場してないものの理事長の推薦と言う形で今回のめメンバーに選ばれた。

体格的には割と大柄で、私が最軽量であった。体格面であれば、各県全体で中の上と言うところだろうか。体格もあつてか瞬発力(前半500mぐらい)は私の予想以上で、短い距離にもある程度自信持っていた私であるが正直な所、これは少しかなわれないと言う印象を受けた。しかし練習不足であるためか、持久力に問題があり、後半急激に失速し前半の頑張りを生かすきれていかなかったように思えた。前半を後半が打ち消してしまうため結局は体力のみで考えても準決勝進出は厳しかったように思う。

技術面に関しては、所属している団体、指導者の違いもあつてか三者三様といった感じだった。数回の練習でそれを統一するのは、およそ無理で結局そのまま試合に臨む事となった。違いというのは、漕法全体のイメージ(例えば、キヤッチに重点をおくとか、フィニッシュに向けて加速するとか)からキヤッチ、ドライブ、フィニッシュと言った所にまで及んだ。ボートと言う競技に於いてこれらを統一する事は最重要課題でありそれをクリアできなかった事を考えれば、クルー全体での漕ぎの到達度は参加クルーの最低ランクに位置していたように思う。

以上のように体力、技術両方に芳しくなく、2次予選敗退と言うのは順当な所であろう。少なくとも国体で決

勝、順位決定戦に残ろうと思えば、エルゴメーターで1000mを3分前半でまわし(クルーの平均)、且つある程度の技術を持つものが同じクルーで最低1ヶ月以上漕ぎこむ事が必要であろう。

来年からの選抜方法はどうか分らないが、国体には頑張つて是非一度(特に4年生までに)出てみることをお勧めする。というのは、大会中は食べ物、飲み物が取り放題であるし他にもいろいろな意味で優遇されるからと言うケチな理由(私にとつては大変嬉しかったが)もあるが、何よりも国体は想像以上にレベルが高くいろんな意味で刺激され、気付かされることも多いからである。

最後の気付いた事を。ここ数年、県漕で、園漕会に負け続けている。話を聞いても、実際に漕いでみても、あまり漕ぎ込んでいない様子はない。では何故、冬場にエルゴを漕ぎこみ、3月の後半から毎週末合宿をしている私たちが勝てないのか。技術に関しては、その目指す所が違うのでなんとも言えないが、クルーのまとまりに関しては練習量が多い分、こちらが勝つていいと言っている。ではどこか？まずはどうしても埋まらない、絶対的な体格差。これは歴然としていて認めざるを得ない。この差は前半300mぐらいまでに影響し、練習で最も埋まりにくい部分だと思ふ。次に戦略。彼らと一緒に漕いでいて驚かされたのはスタートからひたすらローイングをつづけると言う事

だ。ダブルローイングどころの話じゃなくて、へたするとその2、3倍ぐらいはひたすらスタートダッシュといった所であろうか。これは、力の強いクルーには案外有効であり前半早々においていかれたクルーの戦意を喪失させる。実際今年の県漕においてもローイングが終わったあたりから差をつけられ前半500mには完全に水があいてしまった。そして最後に経験。ここ最近の対校クルーは大きなレースで勝ちを経験したものが少なく、いざ試合で、先に出られたりこちらがミスをしたりすると途端に冷静さを失って勝てるレースにも負けてしまう事が多かった。一方、園漕会は経験が豊富で自分たちの勝ちパターンを知っておりそのレース運びにも余裕が感じられた。

これらが、私なりに考える敗因である。来年以降、園漕会に負けたくないと思うのであれば、以上のことを念頭に置き必死に努力する必要があるように思う。



# 関西朝日レガッタ体験記

3年 近藤 学

私は今年、関西朝日レガッタに初めて出場した。まず驚いたのは、大会名が単に「朝日レガッタ」だったということである。私にとっては「九州朝日レガッタ」に対しての「関西朝日レガッタ」だったのだが、関西のボート関係者にとっては九朝なんぞは全く眼中にないのだろう。もつとも、大会の規模、レベルの面から考えるとそれも当然のことなのだが。

さて、肝心のレースのほうだが、予選で西医体でもライバルになると思われる滋賀医大の一番艇と並べることとなった。試合前のミーティングでも滋賀医のみをマークするということを確認してレースに臨んだ。結果は、トップだった滋賀医に対して20秒差の最下位。最下位ということよりも同じ医学部の艇にそれだけの差をつけられたということが非常にショックであった。また二週間前の九山で優勝し、ある程度の自信をもって臨んでいただけにレース後、クルー全員がまさに言葉を失っていた。結局、次の日に行われた敗復でも5位となり、大会に参加した医学部で唯一準決勝に残ることができなかった。

結果を見れば惨憺たるものだが、大会に出場したことで

得たものは非常に大きかったと思う。第一に、惨敗したことで新たに気を引き締めて西医体までの練習に臨むことができたということである。結局、西医体でも滋賀医に勝つことはできなかったが、もし関朝に出場していなければその差はさらに開いていたかもしれない。第二に、これは私個人の感想だが、長崎と琵琶湖ではおそらく同じ練習をしても琵琶湖で練習をしたほうが速くなるだろう。それほど琵琶湖は環境に恵まれている。(コンディションは良くないが)大きな違いはまわりにライバルとなり得る艇が多く存在することと、人目につく所で練習していることである。すなわち、長崎の子々川で琵琶湖の連中と同じ質の練習をしようとすれば、相当集中して練習する必要があるということがわかったのである。

現役部員のなかで関朝の雰囲気味わった経験がある部員はあまりいないのだが、ボートをやるうえでかならずプラスになることだと思うのでぜひ一度なんらかの形で、全員に体験してもらいたいと思う。

最後になりましたが、関西朝日レガッタ出場に際してOBの先生方から多くのご支援をいただいたおかげで、自己負担額が非常に少なくてすみました。遠征時の毎回のご支援、本当にありがとうございます。

# スポーツマンの食事の取り方

4年 田浦 康明

## ・栄養と体力・

体の大きさの大小は食事に大きく左右される。糖質・脂質・蛋白質の3大栄養素をバランス良く組み合わせた食事を標準とすると、蛋白質を質的・量的に良くした場合、体重が標準に比べアップし、逆に低蛋白食では発育が劣る事が知られている。日本では元来米(＝糖質)を主食としてきたので、欧米の高蛋白質・高脂肪な食事に比べ体格で明らかに劣っている。

また日本人には貧血が多いと言われている。鉄やビタミンB群が十分であっても、蛋白質摂取量が少ないなら貧血は起こりうる。

人の活動エネルギーとして最も重要なのはATPだが、それを作るための酵素も大事な要素である。

人の脂肪の組成は数種類の脂肪酸からできている。なかでもリノール酸は代表的な必須脂肪酸であり、副腎や性腺の働きに役立っている。ストレスに対する抵抗力やスタミナをつける意味でリノール酸含有量の多い液状植物油を取ることが大事である。一般的に、動物性脂肪は血清コレステロール値を上げるが、植物性脂肪は逆にその値を下げる働きがある。

## ・栄養素の働きと所要量・

ここでは順に糖質、脂質、蛋白質、ビタミン、ミネラルについて記述する。

糖質)穀類・いも類の主成分であり、砂糖、ブドウ糖、果糖などもこれに含まれる。糖質の長所としては、活動のエネルギー源として利用されやすい、カロリーあたりの値段が安いといった点である。激しいスポーツにおいて血糖値が下がり疲労した場合、即効性のある回復手段として糖質を取ることが良いとされている。短所としては、エネルギーとしての糖質をでんぷんから取る場合、食事の量が著しく増えることである。糖質は、脂肪と違って体内での脂肪合成のみを促進させるので、肥満になりやすい。体内での糖質分解にはビタミンB1が必要とされ、糖質1kcalあたり1mgの摂取が望ましい。

脂質)脂質の長所は、グラムあたりのカロリー価が高い、脂溶性ビタミン(A、D、E)の吸収に役立つといった点である。注意すべきは、動物性脂肪が血中コレステロール値を上げる点である。ただし、魚類や鶏の脂肪はこれに当てはまらない。肉体活動の激しい場合は総カロリーの30%を脂肪で取ることが推奨される。

蛋白質) 人は動植物界から蛋白質を取りいれているが、生物の種類によってアミノ酸の含有量は異なる。したがって、より人が持っているアミノ酸構成に近い蛋白質、すなわち動物性蛋白質を取ることが重要である。初めてスポーツをする場合や、トレーニングシーズンに入る場合は、筋肉が肥厚してくるのでより多くの蛋白質を取る必要がある(体重1kgあたり2g程)。

ビタミン) 水溶性ビタミンと脂溶性ビタミンとに大別できる。

#### 水溶性ビタミン

- ・ ビタミンB1は糖質・脂質・蛋白質代謝に必要な助酵素である。1k calあたり0.4mg必要で、エネルギー消費量に比例してより多く摂取しなければならない。大豆、ゴマ、ジャガイモ、豚肉、レバー、ハム、卵の黄身などに含まれる。
- ・ ビタミンB2は1k calあたり0.5mgが必要。牛乳、レバー、卵、緑黄色野菜に含まれる。
- ・ ビタミンCは1k calあたり0.8mgが必要。野菜や果物に多く含まれるが、一方で動物性食品や穀類にはほとんど含まれていない。熱で壊れやすい性質を持つ。

#### 脂溶性ビタミン

- ・ ビタミンAは植物中にカロチンとして含まれる。脂溶性なので、吸収は同時に摂取した脂肪の量に左右される。
- ・ ビタミンDの作用は成長の促進、特に骨や歯に対する力

ルシウム塩の沈着に関係している。

ミネラル) 有機物の主成分を除いた他の元素である。カルシウム、リン、マグネシウムなどは骨や歯の主成分であり、鉄、リン、カルシウムなどは血球や筋肉組織の成分として重要である。亜鉛や銅、鉄は酵素の働きを助ける。

・ カルシウムは、骨組織の構成成分として、また筋肉の収縮機構に関して重要である。夏季の運動時には汗の中で300mgも排泄することもがあるので、そのような場合には余分に摂取しなければならない。

・ 鉄は、赤血球のヘモグロビンの成分として重要である。

・ 食塩は、NaとClと両元素の働きを持っている。夏季の運動時には発汗により大量に失われるので、水分に加え食塩も取る必要がある。

・ リンはATPに代表される高エネルギーリン酸化合物の構成成分として重要。ATPは筋収縮の直接的なエネルギー成分である(日本の食事の傾向としてリンを考慮する必要はない)。

〔日本人の食事の傾向として、塩分過剰が挙げられる。そのため、練習における塩分の排泄に関しては特に考慮する必要はないと思われる。カロリー摂取に関しては、一人暮らしの者がほとんどのため、目標よりは劣るものと思われる(及川さんは>クルー時代、体重維持のために1度に米2

く3合を食べていたそうである)。体のできていない細い人間(特に1年生)は高蛋白質・高脂質食をするべきだと思われる。最近では食物繊維の重要性が言われているが、これは腸内にある余分な物質を便とともにだす意味で重要である。腸内に余分なものがあれば、食事の量が減るのは当然である(膨満感)。ビタミンの欠乏は物質代謝に大きな影響を及ぼすので、野菜、果物の摂取が望まれる(部員の食事の傾向を考えると、過剰摂取という事はありえない)。

## ・スポーツマンのエネルギー所要量・

スポーツマンのエネルギー消費量は、オフシーズン、トレーニング期、試合期とに分けられる。トレーニング期はエネルギー消費量も高く、大事な時期である。ボートに関して言えば、運動強度が非常に重い。体重が72kgの人は1日に4500kcal以上消費するとも言われる。ただ、基本的に大切な事は、個人にとって運動をするのに最も望ましい体重を維持する事である。

## ・スポーツマンの蛋白質所要量・

トレーニングによる筋肉の肥大と、その運動によって生じるストレスが赤血球を破壊する(スポーツ性贫血)事を考慮すると、体重1kgあたり2gの蛋白質摂取が望まれる。

## ・スポーツマンのミネラル、ビタミンの所要量・

カルシウム、鉄、食塩の摂取については特別に考慮する事が必要である。カルシウムや食塩は、発汗によって一緒に排泄される。鉄はヘモグロビン、筋肉ミオグロビンの重要な成分であり、通常より多い20〜25mg程の摂取が望まれる。ビタミン類の中でも、ビタミンAは疲労回復に有効であり、ビタミンCはストレスに対する抵抗力をつける点で重要である。

## ・スポーツマンの食事構成・

シーズン中は1日4500kcal程の食事が望まれるが、シーズンオフ(陸トレ中心)でも3000〜3500kcalは必要と思われる(練習の負荷にも左右される)。構成の割合としては、糖質50%、脂質35%、蛋白質15%くらいが目安とされる。

## ・試合前・試合時の食事・

試合に要するエネルギーの供給は糖質を主体とする。また、ストレスに対する抵抗力の意味でビタミン、ミネラルも必要である。試合前の食事は約3時間くらい前が適当とされる。ただし、この時間は摂取量に関係し、試合時間が

短い場合や、摂取熱量が5000 kcal程度の場合には1時間半前でも影響はない。試合前の食事は量的に多くないほうが好ましい(5000〜10000 kcal)。脂肪、蛋白質は普段より少なく、糖質を主体とする。消化の良い食品を取る。発汗を考慮して水分を取る。

試合中(断続的なもの)の食事は甘く、やや酸味のある液体食が有効である。糖質は、体内グリコーゲンの低下を補う意味で、1時間に50g程度を小分けにして取ると良い。

〔ウイダー・エネルギーインの摂取が最も効率的と思われる。試合当日の朝はコンビニで食品を買う事が多いが、この時カロリー量、脂質量に気を配るようにする。また、ビタミン作用を考慮して果物のジュースを購入すると良い。〕

## 蛋白質 入門編

蛋白質は絶えず分解されているため、毎日一定量の蛋白質を取って補うことが必要である。良質な蛋白質を含む食品は、卵・牛乳・肉類・魚介類・大豆・米などである。

卵は栄養豊富で、良質蛋白質に加えビタミンA・B1・B2・鉄を多く含む。スポーツをする人は代謝が活発なので、コレステロール値を気にする必要はない。ただし、肉類の脂肪は体内コレステロール値を上げる働きがあるので注意する必要がある。

牛乳は、良質蛋白質に加え吸収されやすいカルシウムとビタミンB2も多く含む。

シーズン中の練習では、1日に体重1kgあたり約1.6g程度必要とされる。日本の一流チームにおいては体重1kgあたり約2g程度とされている。そこで、食物中の蛋白質含有量だが、卵1個、魚半切れ、肉40〜50g、ハム2切れ、豆腐半丁、納豆1パックなどに蛋白質約6〜8gが含まれる。

市販の蛋白質に関して、目標とする蛋白質摂取量を食事だけで取れない場合は必要と思われる。ただし、過剰に蛋白質を取ると腎臓に負担をかけることとなる。

# 蛋白質 実践編

## 1. 筋肉作りのプロゲラム

H.W.によって筋繊維に微細な損傷を与え、その修復作業を過剰に行わせることによって筋肉は太くなる。

またH.W.には成長ホルモンの分泌を促す作用がある。成長ホルモンは血中アミノ酸の筋肉による取り込みを促し、また、インスリン様成長因子の分泌を促して筋肉による蛋白質合成を活性化する。

## 2. 睡眠の効果

物質代謝については、睡眠中には分解が抑制され合成が活発になるのが普通であり、筋肉合成もこれに従う。睡眠中は、蛋白質合成を抑制するグルココルチコイドの分泌が低下し、かつノンレム睡眠における成長ホルモンの分泌が活発化し、蛋白質合成が活発化する。

## 3. 効果的な蛋白質摂取方法

H.W.は成長ホルモンの分泌を促すが、そのピークはトレーニング直後の1〜2時間程であり、この間に血中アミノ酸量を増加させる必要がある。従って、H.W.を実行する1〜2時間前に食事で蛋白質を摂取しておき、それが消化・吸

収されて血中アミノ酸が増加するところにH.W.をするのが理想的である。もう一つの方法として、H.W.を終えた後30分と間隔をあけずに食事を取る方法がある。大相撲界に代表されるのがこの方法である。

例) 大相撲界:

力士は、午前中の稽古の締めくくりとしてウエイトトレーニングを15〜20分程実行した後、入浴し、ちゃんこ鍋の食事を取り、午睡をとる。これは、トレーニングと食事と睡眠の間隔が短いので、トレーニング後体をすぐに休養させる点で合理的といえる。貴乃花は、1年間で20kgの筋肉を増やしたとされている。

## 新入生紹介

### 〱荒木 孝太郎〱

先日三十路記念パーティーが盛大に行われたワサノさん  
に続く再受験組の新入生が我がボート部に入部してきた。  
それが「コータロー」である。アメリカン・フットボール  
の経験者である彼は、持ち前の体力で練習に臨む。そして  
ergoでは、ペースの配分など考えずに前半に猛ラッ  
シュをかける精神力には、目を見張るものがある。持久力  
を身につけ、バックをとり過ぎなければ、凄まじい記録を  
たたき出してくれるに違いない。また、彼には器用な一面  
もあり、携帯電話、冷蔵庫、テレビ、その他等に塗装を施  
し、リギングもいち早くマスターするに至った。将来の道  
具係も囑望される彼には、これからも頑張っていてもら  
いたい。

(文責：高田)

### 〱夏田 孔史〱

今の1年生の中で一番最初にボート部に入部したのがこ  
の夏田だった。その後の勧誘、練習、試合、飲み会と場を

踏んでいくたびにだんだんとボート部らしくなり、今と  
なつてはボート部の飲み会には欠かせない存在となった。  
多くの先輩達にも可愛がられ、時にはその人に喧嘩をう  
る事もあるが、将来が非常に有望である事は間違いない。  
これからは最近できた彼女以外にも女遊び等、頑張つて  
もらいたいものである。

(文責：山道)

### 〱冬野 誠也〱

言わずも知れた、ボート部創世時代のOBである冬野誠  
三先生のご子息である。

5月にあつた九州朝日レガッタの時の、夜の小倉でのH  
コース後の喜び様(わけがわからず、ジャージを後ろ前に  
着ている)はバストスナップとして部屋に飾つてあるし、  
10月の長崎くんちでのしやぎ様は記憶に新しい。OBの  
先生の結婚式で初めて龍踊りをした時も、率先してふんど  
しをはいていた。とにかくお祭り男で、ノリがいい。でも、  
軽くないのが、彼のいいところ。彼女一筋だし、ボートに  
対する情熱は人一倍持っている。この男なら、なんでも  
やってくれそうな気がする。ボート部員として、どんな成  
長を遂げるのか、どんな大失敗をやらかすか、今後とも目  
離せない。

(文責：吉武)

# 2000年度試合結果報告

## 第39回九州・山口医科学生体育大会

2000年4月23日

### 宮崎県新富町富田浜漕艇場

男子対校舵手付きフォア（5クルー）

蓋世：C西條知見、S崎元晋、3高木理博、2近藤学、B田辺孝大

決勝	
I 早良（福岡大）	4分17秒22 5位
II 煌牙（産業医大）	4分06秒84 2位
III 蓋世	4分05秒45 1位
IV 魁偉（佐賀医科大）	4分15秒16 4位
V 天照II（宮崎医科大）	4分14秒52 3位

男子オーブン舵手付きフォア（10クルー）

鴻図：C田浦康明、S山口仁平、3吉武記一、2和佐野喜也、B高田潤

雄図：C末下雅也、S山道忍、3青山英和、2蓬萊彰士、B渡辺庸平

予選A（5・2）

I 玄海（福岡大）	4分25秒56 4位
II 篠山（久留米大）	4分45秒94 5位
III 槍翠（産業医科大）	4分08秒12 3位
IV 鴻図	4分07秒13 2位
V 池田木挽（宮崎医科大）	4分03秒23 1位

予選B（5・2）

決勝	
I 雄図	4分02秒90 2位
II 未来船（福岡大）	4分20秒69 3位
III 筑水（久留米大）	5分08秒90 5位
IV 不死鳥（宮崎医科大）	4分51秒75 4位
V 魁翔（佐賀医科大）	3分56秒96 1位

決勝

I 魁翔（佐賀医科大）	1位
II 鴻図	3位
III 雄図	失格
IV 池田木挽（宮崎医科大）	2位

（雄図のレーン侵害により没収試合となり予選タイムにより着順決定となった。）



男子シングルスカル(2クルー)  
静：豊田啓介

決勝

I 静	4分36秒52	1位
II 篠懸(宮崎医科大)	4分41秒62	2位

### 第53回関西・朝日レガッタ

2000年5月3、4、5、6日

### 滋賀県立琵琶湖漕艇場

一般男子舵手付きフォア(45クルー)

蓋世：C西條知見、S崎元晋、3高木理博、2近藤学、B田辺孝大

予選(6・2)

I 飛騨(滋賀医科大)	3分18秒13	1位
II 勢多飛翔会	3分26秒98	3位
III 蓋世	3分34秒82	6位
IV そよ風(鳥取大)	3分31秒08	4位
V 神戸商船大	3分32秒80	5位
VI 大阪大	3分26秒05	2位

敗復(5・2)

I 滋賀大経済	3分41秒87	5位
II 蓋世	3分33秒98	4位
III 名古屋工大	3分26秒60	2位
IV 同志社大	3分24秒80	1位
V 神戸大	3分26秒83	3位

### 第47回九州朝日レガッタ

2000年5月20、21日

### 福岡県遠賀川漕艇場

一般男子舵手付きフォア(12クルー)

蓋世：C西條知見、S崎元晋、3高木理博、2近藤学、B田辺孝大

鴻図：C田浦康明、S吉武記一、3和佐野喜也、2高田潤、B青山英和

予選A(4・2)

I 博多EXPRESS	4分06秒20	1位
II 蓋世	4分06秒43	2位

III	羅漢 (山口大)	4分20秒20	3位
IV	長崎大学全学	4分55秒05	4位

雄図：C 蓬萊彰士、S 山道忍、3 荒木孝太郎、2 夏田孔史、B 冬野誠也、高嶺朋三

予選B (4・2)

I	竜水 (熊本大)	3分45秒51	1位
II	明専 (九州工業大)	3分53秒29	3位
III	新日鉄八幡	3分46秒30	2位
IV	鴻図	4分05秒45	4位

予選A (5・2)

I	福岡教育大	2分35秒93	3位
II	崎陽	2分42秒30	4位
III	唐津市役所	2分17秒72	1位
IV	久留米大学医学部A	2分44秒28	5位
V	瀬板ローイングクラブ	2分28秒91	2位

敗復D (3・1)

I	虎砲 (熊本大)	4分05秒99	1位
II	羅漢 (山口大)	4分06秒56	2位
III	鴻図	4分34秒72	3位

予選B (5・2)

I	新菱	2分33秒31	2位
II	雄図	2分42秒92	3位
III	久留米大学医学部B	2分57秒49	4位
IV	大分大	3分05秒86	5位
V	産業医科大	2分10秒62	1位

準決勝G (4・2)

I	熊本学園大	3分31秒57	1位
II	竜水 (熊本大)	3分37秒24	2位
III	蓋世	3分39秒97	3位
IV	虎砲 (熊本大)	3分41秒93	4位

敗復D (3・1)

I	崎陽	2分32秒00	3位
II	雄図	2分26秒24	2位
III	久留米大学医学部A	2分21秒74	1位

一般男子ナックルフォア (10クルー)

崎陽：C 末下雅也、S 渡辺庸平、3 岡田寛文、2 吉崎歩、

B 袴田晃央

一般男子シングルスカル（6クルー）  
 静：豊田啓介

決勝

I	園漕会	5分21秒22	3位
II	熊本学園大	5分16秒91	2位
III	松浦川RC	4分43秒34	1位
IV	新日鉄八幡	7分05秒40	6位
V	静	5分43秒59	4位
VI	遠賀高校OB	5分43秒81	5位

第55回国体長崎県選考会ボート競技

2000年6月4日

長崎県琴海町形上湾漕艇場

成年男子舵手付きフォア（8クルー）

蓋世：C西條知見、S崎元晋、3高木理博、2近藤学、B  
 田辺孝大

鴻図：C田浦康明、S吉武記一、3和佐野喜也、2高田潤、  
 B青山英和

雄図：C末下雅也、S渡辺庸平、3猪狩圭介、2高嶺朋三、  
 B袴田晃史  
 崎陽：C蓬萊彰士、S山道忍、3豊田啓介、2夏田孔史、  
 B冬野誠也

予選A（3・2）

II	蓋世	3分39秒31	1位
III	佐世保高専	3分47秒93	2位
IV	崎陽	4分26秒85	3位

予選B（3・1）

I	雄図	5分02秒11	3位
II	長崎選抜	3分42秒88	1位
III	鴻図	3分58秒23	2位

決勝

I	鴻図	3分58秒94	4位
II	蓋世	3分49秒10	2位
III	長崎選抜	3分40秒88	1位
IV	佐世保高専	3分56秒59	3位

# 第52回西日本医科学学生総合体育大会

## ボート部門

2000年8月4、5日

### 広島県福山市芦田川漕艇場

男子舵手付きフォア(24クルー)

蓋世：C西條知見、S崎元晋、3田辺孝大、2近藤学、B高木理博

鴻凶：C田浦康明、S吉武記一、3和佐野喜也、2高田潤、B青山英和

#### 一次予選A(6・3)

I	煌牙(産業医科大)	3分53秒66	3位
II	湍(浜松医科大)	3分51秒51	2位
III	魁翔(佐賀医科大)	4分01秒30	5位
IV	早良(福岡大)	3分58秒91	4位
V	PEGASUS(鳥取大)	4分02秒90	6位
VI	蓋世	3分46秒63	1位

#### 一次予選D(6・3)

I	篠山(久留米大)	4分35秒39	6位
II	飛騨(滋賀医科大)	3分42秒93	2位
III	鴻凶	3分58秒62	3位
IV	PERSEUS II(大阪大)	4分00秒03	4位
V	芝蘭(京都大)	3分37秒23	1位
VI	洗洋(浜松医科大)	4分02秒71	5位

#### 二次予選A(4・2)

I	天照 II(宮崎医科大)	3分41秒80	3位
II	蓋世	3分39秒16	2位
III	芝蘭(京都大)	3分37秒87	1位
IV	紅駿(京都大)	3分45秒06	4位

#### 二次予選B(4・2)

I	鴻凶	4分03秒92	4位
II	魁偉(佐賀医科大)	3分39秒82	2位
III	el viento(鳥取大)	3分39秒45	1位
IV	湍(浜松医科大)	3分45秒20	3位

二次敗復A (4・2)

I	瀏濫 (浜松医科大)	3分56秒74	4位
II	鴻図	3分52秒18	3位
III	天照II (宮崎医科大)	3分40秒31	1位
IV	瀛 (浜松医科大)	3分41秒91	2位

準決勝C (4・2)

I	TRISTAN (大阪大)	4分04秒43	4位
II	el viento (鳥取大)	3分50秒73	2位
III	蓋世	3分50秒01	1位
IV	湍 (浜松医科大)	3分52秒94	3位

決勝

I	el viento (鳥取大)	3分43秒70	3位
II	魁偉 (佐賀医科大)	3分49秒17	6位
III	芝蘭 (京都大)	3分44秒20	4位
IV	蓋世	3分45秒82	5位
V	飛騨 (滋賀医科大)	3分31秒54	1位
VI	天風 (岡山大)	3分32秒69	2位

男子ナックルフォア (18クルー)

雄図：C末下雅也、S荒木孝太郎、3岡田寛丈、2高嶺朋三、B袴田晃央

崎陽：C蓬萊彰士、S山道忍、3猪狩圭介、2夏田孔史、B冬野誠也

予選A (5・2)

I	うなぎパイ (浜松医科大)	4分08秒57	1位
II	聖山 (和歌山県立医科大)	4分20秒08	2位
III	黒帯 (金沢大)	4分38秒89	4位
IV	CANOPUS (大阪大)	4分54秒93	5位
V	雄図	4分38秒52	3位

予選C (5・2)

I	京都大学	4分21秒24	1位
II	崎陽	4分34秒85	3位
III	日向 (宮崎医科大)	4分22秒53	2位
IV	手取川 (金沢大)	5分00秒03	5位
V	桃太郎 (産業医科大)	4分35秒41	4位

敗復 A (5・2)

I 手取川 (金沢大) 5分09秒78 4位

II 桃太郎 (産業医科大) 4分39秒44 1位

III 熊楠 (和歌山県立医科大) 4分44秒18 2位

IV 雄図 5分08秒12 3位

V ナツクルボンバー (香川医科大) 5分27秒06 5位

敗復 B (4・2)

I CANOPUS (大阪大) 5分24秒92 4位

II 崎陽 4分43秒11 2位

III 海坊主 (浜松医科大) 4分37秒00 1位

IV 黒帯 (金沢大) 4分44秒02 3位

準決勝 B (4・2)

I 崎陽 4分45秒57 4位

II 聖山 (和歌山県立医科大) 4分24秒68 3位

III 湖神 (滋賀医科大) 4分20秒61 1位

IV 轟天 (佐賀医科大) 4分24秒29 2位

男子ダブルスカル (7クルー)

碧: S 豊田啓介、B 渡辺庸平

予選 A (4・2)

II 京都府立医科大学 4分30秒49 4位

III 照葉 (宮崎医科大) 3分48秒20 1位

IV 碧 3分56秒13 3位

V Jonathan (滋賀医科大) 3分52秒80 2位

敗復 (4・1)

I A (滋賀医科大) 棄権

II 紫龍 (鳥取大) 4分25秒16 2位

III 碧 4分06秒10 1位

IV 京都府立医科大学 4分27秒30 3位

決勝

I 照葉 (宮崎医科大) 4分12秒92 2位

II 碧 4分15秒11 3位

III 疾風 (宮崎医科大) 4分24秒41 4位

IV Jonathan (滋賀医科大) 4分09秒79 1位

# COX記

Aクルー

・オフシーズンの練習

オフシーズン中の練習では、次の2つを目標とした。

1. 基礎体力の向上。

2. エルゴ大会においてAクルー全員が国体に出されること。

まず、1. についてであるが、2000年より練習方法を変え、筋トレは以前まで一回の練習として行っていたものを、他の練習と組み合わせることで練習効率を上げることに成功した。これによって、基礎体力は昨年度より大幅に向上したと思われる。

次に、2. についてであるが、エルゴを9月より行い、3ヶ月間は30分のライトパドルにおいて各人の目標タイムを徐々に上げていくという練習を行った。また、エルゴ大会の2ヶ月前より短距離を取り入れ、これにも各人の目標距離を徐々に上げていくという方法をとった。ここまでは以前の練習とそんなに差はないのだが、今年よりエルゴ練習後には必ず5分から10分のクールダウンにおける技術確認を行い、最も悪いと思われる箇所を注意するとともに次回の練習においてそこだけは直すといった意識を持たせることにした。この様な意識をもたせることは、シーズン中の乗艇練習において明確に自分の悪い箇所を意識させ

ることにつながる1つの方法だと思う。

この様に今年から練習方法を若干変更しながらオフシーズンを過ごしたのだが、私的には練習効率は少しではあるが上がったと思う。現4年生以下は、さらに練習を工夫し、効率を上げてもらいたい。

エルゴ大会の結果は、

田辺 6分56秒09      高木 7分22秒07

崎元 7分01秒04      近藤 7分08秒01

という結果であり、残念ながら国体選出メンバーは田辺だけであった。しかし、Aクルーとしては西医体でメダルを狙えるタイムであると思える結果であった。

・九山

シーズンが始まって間もないということ、特に九山に対しての練習というものはないが、九山は絶対に優勝しなければならぬ試合である。ただ、本格的にシーズンが始まって1ヶ月しかなく、また他の学校のクルーも同じ状況で練習を始めているだろうから、無理にパドルを行わずにライトパドルのみを行った。また、乗艇においても技術練習ということで最後にペア漕ぎと10分程のフォアを行った。これが思っていたよりも技術の向上につながった。この練習は今後続けていってほしい練習である。

・九山のレース展開と結果

まずスタートローイングで長崎が1挺身のリード。コンスタント600mまで徐々に他大学を引き離し2位の産業

医とは1.5挺身ほど差をつけていたが、600m付近で産業医が2枚上げを入れたらしく1挺身弱まで差を詰められる。そのためこちらでも700mより2枚上げ、残り180mからラストスパートを入れた。

優勝はしたものの漕ぎは非常に悪かった。しかし、この優勝が自分たちを少し過大評価させてしまい、関朝まで危機感を持った練習ができなかった。これは後から考えると、非常に練習効率を下げてしまったと思う。

#### ・関西朝日レガッタ

練習としては九山までと同じくライトパドル主体の練習を行った。九山優勝によりクルーの調子はなかなか良かったと思っていたが、関朝に出場したことで自分たちの甘さを感じ知らされた。全く他大学に歯が立たなかった。このことにより練習をもう一度見直し、4人の蹴りのタイミングを合わせることを以後の練習の最重要課題とした。

#### ・関西朝日レガッタのレース展開

予選では滋賀医科のAクルーと当たったため、滋賀の實力を見る試合でもあったのだが、スタートローイングから他大学に引き離され、さらにコンスタントでますますその差を広げられ700mで滋賀に約6挺身差をつけられ、2枚上げ及びラストスパートを入れるも差が縮まらないままゴールし、6艇中6位に終わってしまった。

敗者復活戦ではスタートローイングで2位とスタートでの大きな失敗はなかったのだが、コンスタントで他大学に

2挺身ほど離されてしまい、4位という結果に終わってしまった。

#### ・九州朝日レガッタ

関朝の反省から練習においてはまず蹴りのタイミングを合わせることにだけに注意を払った。初め、蹴りのタイミングを合わせるのにそんなに時間はかからないだろうと思っていたのだが、これがなかなか合わず、リギングを変えるなど試行錯誤しながら練習したのだが、西医体までなかなか直らなかった。また、以前まで九朝のための調整などは行わなかったのだが、今年は一一つの試合を落とさずに行おうということで試合2週間前よりパドルの練習を行った。関朝以降の練習において今年より練習方法を変えた点は、ライトパドル主体の練習においても必ず3分間のパドルを1度は行うことだった。これは、試合

におけるペース配分を確実に身に付けるという目的のために行ったものである。

#### ・九朝のレース展開と結果

予選では、まずスタートローイングで博多エクスプレスに1キャンバス前に出られ、コンスタントおよび2枚上げ、ラストスパートと全く同じ艇速のまま1キャンバス差をつけられゴールし、2位という結果に終わってしまった。予選の漕ぎは、遠賀川のコンディションを考慮に入れても悪いものであった。横に艇がいたためそれを気にするあまり自分たちの漕ぎができなかったためである。自分た



ちが負けている場合において横並びとなった状態での精神的な弱さが露呈してしまったレースであった。

準決勝では、スタートローイングで熊本学院、熊大全学と横並びにスタートしたもののコンスタントで力負けしてしまい、熊本学院には700mの時点で2挺身半、熊大全学には1挺身の差をつけられ、2枚上げ及びラストスパートでも追いつかず3位に終わってしまった。

九朝の結果に対する感想としては、このままでは西医体の決勝にも残れないというのが正直な感想であった。

#### ・県漕

県漕までの練習では、ライトパドル主体の練習においてはまず蹴りのタイミングを合わせることを最低の課題とし、その次には各人において最も艇のバランスに影響を与えるであろう点に注意した。パドルの練習においては蹴りのタイミングを合わせることに意識を集中するようにした。ライトパドルでは蹴りのタイミングも合い出していたのだが、やはりパドルになると若干のずれが出ていた。蹴りのずれは、艇速を下げる大きな要因であり、また容易にバランスを崩してしまうことになる。もし蹴りが完璧に合っていないと、他の部分（ブレードの高さなど）が若干ずれていてもそんなに簡単にバランスを崩すことはない。新しくクルーを組んで練習を行う際にも、この点にまず注意して練習してほしいと思う。

#### ・県漕のレース展開と結果

予選では、スタートローイングで佐世保高専に1挺身の差をつけ、コンスタントで徐々にその差を広げ700m付近で約2挺身の差がついていたため、決勝のための体力を温存するために800mから2枚上げをいれ、ラストスパートはいれなかった。結局、2挺身差のままゴールした。決勝では、スタートローイングで長崎選抜とほぼ横並び状態であったが、コンスタントで徐々に差をつけられ600m付近で約2挺身半の差をつけられてしまった。そのため600mより2枚上げを入れたが差が縮まらず、ラストスパートを50mのばして850mからラストスパートを入れたのだが、長崎選抜も同じ様な配分であったためコンスタントの差が縮まらないままゴールし、結局2挺身半の差をつけられたままであった。

#### ・西医体

西医体までの練習目標としては、パドルでも蹴りのタイミングが完璧に合うようになるというものであった。この頃はパドルでも蹴りのタイミングが合うようになってきてはいたのだが、全ての練習においてタイミングが合うとも言えなかったからである。しかし、この時期にはクルー全員が蹴りに対する意識があったため西医体直前には蹴りのタイミングはほとんど合うようになっていた。また、氏家コーチの助言により試合のペース配分を想定した3分30秒を漕ぎ込んでいった。これは、1000mの試合においてスタート5本、ローイング10本、300mで足蹴り3

本、500mで足蹴り5本、750mで2枚上げ、900mでラストスパートという配分を体に覚えさせるというもので、レースでもこの配分を絶対に崩さないようにするためのものである。

・西医体のレース展開と結果  
予選

スタートローイングで長崎、浜松医科、産業医科の3艇が横並びだったが、300mまでに産業が出遅れ長崎と浜松の2艇の争いとなる。300mの足蹴りで長崎が半挺身強の差をつけ500mまで徐々にその差を離す。500mの足蹴りで約1挺身の差をつけ2枚上げ及びラストスパートでさらに1挺身ほど差をつけ1位でゴール。滑り出しの良い予選であった。

## 2次予選

スタートローイングで長崎、京都、宮崎の3艇が横並びであった。300mの足蹴りで宮崎に半キャンバスほどの差をつけるが京都とは依然横並び状態であった。500mまでに宮崎には半挺身差をつけるが京都に1キャンバスほど出られてしまう。500m以降京都を標的として追っていくも700mまでに差を広げられ約半挺身差をつけられしてしまう。700mで2枚上げ、900mよりラストスパートを入れるも差は縮まらず2位でゴール。結局、京都とは半挺身強の差であった。

## 準決勝

私的に最も緊張した試合であった。そのため冷静さを欠いてしまい、指示が聞こえにくいなどといったコックスとして最もしてはいけないことをしてしまった。

試合展開は、スタートローイングで長崎と鳥取の2艇が横並びとなる。700mまで2艇ほとんど差がなかったが、2枚上げで半挺身ほど長崎がリードしたため、私の勝手な判断で850mよりラストスパートをいれてしまった。結果は長崎が1位でゴールしたが、私の判断ミスで漕手に大変な混乱を招いてしまった。

## 決勝

スタートローイングでミスしてしまい滋賀と岡山に1挺身弱の差をつけられたため、3位ねらいを目標に指示を行うことにした。ローイング直後は残り4艇が横並びだったが、250m付近でオールを水面にたたいてしまい艇が減速してしまった。それにより鳥取、京都に約1挺身差をつけられてしまう。700mまでにその差を半挺身強まで縮めたので2枚上げ、ラストスパートで追いつくと思ったが差を縮められないまま5位でゴール。

## ・総括

今年1年を振り返ってみると、最も艇速に結びついたのは蹴りのタイミングであったと思う。そのため、練習ではシーズンの早い時期に蹴りのタイミングを完璧に合わせられるようにしておくべきだったと思う。これが早い時期に

できていれば、他の細かいところを直す余裕が出てくる上、簡単には艇のバランスも崩れないので練習中の精神的負担も減り、練習効率の向上も見込むことができる。重ねて言うが、1年生クルーや新しく組んだクルーではここから指導していくべきだと私は思う。このことに気付くのが遅すぎたことを今更ながら後悔している。

次に試合であるが、今年メダルを取れるだけの力がありながら取れなかった理由を考えると、一つには試合慣れの問題があると思う。例えば、練習中Bクルーと並べて模擬試合を行ったとする。これ自身は、Aクルーだけで練習を行うよりも実戦的で効率も良い。しかし、心理的な面ではやはり試合ほどの緊張感を持ってないのである。コックスが駄目だと言われたしまうと返す言葉もないのだが、今年のAクルーには西医体決勝戦経験者が1人もいなかったのも、最後に負けてしまった要因だと思う。次回の西医体では崎元、近藤の2人が継続してAクルーに乗っている。新Aクルーには是非ともメダルを取ってもらいたい。また、メダリストでもない私がこんなことを言えた義理はないのだが、もし、一度メダルが取れたならば、毎年取り続けていってもらいたい。一度メダルを取り逃がしてしまうと、それを取り返すのに何年もかかってしまうだろうから。

## Bクルー

今年のBクルーは、あまり良い成績が残せなかった。前回の部誌でえらそうな事を書いてしまったので、今回は反省点を挙げていこうと思うが、その前にBクルーの存在意義というものを個人的に書こうと思う。

Bクルーは、年間に出場する試合のなかでは、九山を除けば活躍する場はないと言ってもいい。それでも、伝統的にAクルーと試合を並べてきた。それは、Bクルーに乗る人間が期待されているからだと思う。Aクルーのよきライバルとして、そして将来Aクルーに乗るための準備段階として。実質、去年のBクルーは練習でも試合でもAクルーと肩を並べる事ができるほど力をつけていた。みんなに考えてほしいのは「Aクルーの強さ」|| 「部の強さ」ではないという事である。どんなにAクルーが強くても、その時だけだったならば部はいずれ衰退してしまう。Aクルーが強くなってはならないなら、Bクルーは強くなるうとしなければならぬ。今年のBクルーの面々には上を目指すという気持ちがあった。それが良い成績が残せなかった一番の理由である。前回の部誌で渡辺さんが「感情だけでは艇は進まない」と述べているが、加えて「感情なくして艇は進まない」と僕は思う。

というわけで、今回の反省点。

・遅刻が多い：練習量はそのまま試合のタイムに反映す

る。

・ 練習しない：サボりは厳禁。

・ 全力を出さない：試合後はローアウトしろ。

・ 下を気にする：C・Dクルーと並べても速くはならない。Aクルーを目標に。

・ 反省するだけ：負けた試合から何を学んで後にどう生かすかが重要。

とまあいろいろあるけど、クルーのモチベーションや向上心を引き出せなかったのは自分の責任。

コックスとしても改めて様々な事を教えられた一年だった。

## Cクルー

・ 九山

Cクルー「雄図」はC末下、S山道、3青山、2蓬萊、B渡辺、でした。

予選は福大、久留米、宮医、佐賀医が相手。3位以内は確実だろうと思ったが、5・2だったので厳しいかと思われた。スタート直後、となりの福大邸と接触し、コックスが切れた。しかしそのままレースは進み、500m過ぎで2位が確実と思われたので、800m過ぎで2枚上げ、そのままパートなしでゴール。2位。

決勝。佐賀医、Bクルー、宮医が相手。Bクルーには勝

てるはずだったのでメダルはもらった様なものだった。スタート直後、1レーンの佐賀医に半艇身でられ、2位。500mで追い付く。わずかにリードされたまま、700mで2枚上げ、850mで更に2枚上げ、ここでまだ追いつけない。後少し、後少しで優勝、残り50mは気合いと気合いのぶつかり合だった。だが、ゴールしてみると3レーンのCクルーは4レーンにゴールしていた。真後ろから宮医がゆっくりゴールしてきた。もちろん、失格。

佐賀医さん、宮医さん、Bクルー、済みませんでした。コックスの僕にとつて、ローヤーとしてまけるよりずっと辛かった。悔いの残る試合だった。

・ 九朝

Cクルー「雄図」はC末下、S渡辺、3岡田、2吉崎、B袴田でした。

予選。1年生の最初のレース。目標は、完漕と、どこかに勝つ。5・2なので、まず勝てない。意外と結果は3位。まずまずである。順位は、対戦相手によるのだが、ボロ負けするより、1年生にとつてはずつといい。

敗復。Dクルーと久留米が相手。予選で久留米はDクルーに負けているのでDクルーに勝てば次ぎにいける。同じ大学の1年生クルーなので、勝ち目はある。

が、結果は久留米が1位。Cクルーは2位だった。久留

米は予選で何か有ったのか、全く違うスピードだった。1年生にとって、早く「勝つ」意識をもってもらいたかったので、全体的にいいレースが出来たと思う。

#### ・県漕

前日までにスタレンをしていなかったもので、ノーワークスタートにしようと思っていたが、直前にコックスの気が変わり急遽スタレンを行った。が、やはりうまくいかない。スタートしてすぐでられる。相手の長崎選抜とBクルーとはもう離されている。コックスは指示を間違え「ライトパドルいこう」といつてしまう。徐々にピッチが上がり、25前半で落ち着く。500m手前で足蹴り。700mでは2枚上げをするがあまり関係ない。ゴールしたときのピッチは26前半、タイムは5分02秒。もう1つの1年生クルーとは40秒差だった。コックスが軽ければもう少し良いタイムがでただろう。87kgのコックスであった。

#### ・西医体

Cクルー「雄図」C末下、S荒木、3岡田、2高嶺、B袴田、でした。

予選は浜医、和医大、金沢、大阪、が相手だった。他大学の1年生クルーには勝ちたい。コックス以外は初めての西医体で、気負いもないし、いつもどりの漕ぎをしてもらいたい。レースはずつと前の方を2艇が突き進んでいる

が、すぐ横に金沢大クルーが見える。2枚上げ2回、スパートをに入れて競り勝つ。3位。5・2なので敗復に回る。

敗復も5・2。金沢、産業、和医大、香川が相手。予選のタイムを見ると厳しいが、何とかなるかもしれない、と思いつつレースに臨む。スタートし、すぐ4位に定着。3位のクルーは1艇身差。500mで半艇身差になり、これに勝って終わろうと思った。800m過ぎで並び、スパートをに入れる。3位でゴール。1秒差でさした。最後まで諦めない事が大事である事は、既に分かっていた事だが、このときは身に染みた。この経験を今後にかして、来シーズンに備えようと思う。

ダブルスカル

・西医体

(予選A)

このクルーでは初めてのレースなので下手に予想はたてずに綺麗に漕ぐ事を目標にする。スタートではジョナサンに1艇身近く出られたが照葉には並んでまずまずのスタート。照葉は1年生が乗っている事もありませんに落ちてくるだろうとあまりマークしてなかったが徐々に離されていく。500くらいで先ず1回目の足蹴りを入れる。750過ぎる頃には1艇身近く差がついたまま変わらないので深くは追わずにこのままゴールして敗復に切り替える。

(敗復)

3の1上がり。レースを偵察した所、いつも通り漕げればまず上がれるだろうとの予想。コンディションが悪くスタートは3艇共ガタガタであったがロイニングが終わる頃には1と2艇身程出る。500位までに3と4艇身はなしだったので、750からライトパドルに切り替える。楽勝。

(決勝)

今シーズン最後のレース。何はともあれ全力を出し切り、大きく漕ぐ事を確認して出艇。4艇の力に大きな差はないようだ。

スタート地点は白波が立つ大荒れの状態。スタートはど

の艇もうまくいかず横一線。微妙にジョナサンが出る。400位でバウが切れ込みそうになるが何とか持ち直す。500近くで足蹴りを入れようとすると隣の疾風が切れ込んでほとんど止まった状態になる。ここぞとばかり足蹴りを入れ1と2艇身近く離す。750あたりでは2位の照葉に半艇身負けている。ここから足蹴りに2枚上げを入れて何とか追い付こうとするが、そのまま3位でゴール。

結成して一ヶ月のクルーであったが2人とも経験者であった事と、逆に集中して練習できた事でまあまあこのクルーに仕上がったと思う。来年のクルーには是非優勝してほしい。

シングルスカル

・九山 シングルスカル決勝

二艇レース。ダブルスカルと一緒に漕ぐ。足蹴りも入れる必要はなく優勝。

・九朝 シングルスカル決勝

六艇レース。コンディションが非常に悪く、チンとの戦いとなる。ゴール直前でシートがはずれとまってしまっても、惰性でゴール。四位。

# 卒業にあたって

## 最後の雑感

6年 及川 将弘

現在、日付は変わって2001年2月10日。今年は部誌の原稿の取立てが厳しい。締め切りは年末いっぱいだったのにいつのまにかもう2月だ。担当の高木君もあらかじめサバを読んで締め切りを言ってくるんだらうけど、こっちはその裏を読んで「これくらいまでに出せば大丈夫だらう」なんて思っちゃうんだからたちが悪い。高木、ごめんね。

早いもので部誌の雑感を書くのもこれで7回目、ついに最後である。今まで短文しか書いてこなかったし、締め切りを大幅に遅れたお詫びもかねて今回はちよつと長文でも書いてみるか、なんて思ったりする。目標は「ウイを超えろ！」だ。いや、やっぱ駄目だらうなあ。質、量ともに。知っている人もいるだろうが、僕は7年前に長大に入学し、一人暮らしをはじめてから毎週欠かさず「週刊SPA!!」を買っている。まあ、自分にとつては社会の定点観測のようなもので、そのときの雰囲気みたいなものもよくわかる。べつにSPAじゃなくてもよかつたんだけど、写真

が多い割には安いから。で、今まで買ってきたSPAがいったいどのくらいの量になるのか、というのを計算してみた。一年間はだいたい52週である。SPAは週刊誌だが春、夏、年末は合併号だから、年間49冊発行されることになる。ただ、年に2度ぐらいは買い忘れることがあるので、結局年間47冊のSPAを購入してきたことになる。これが7年間なので、 $49 \times 7 = 347$ 冊である。SPAは1冊だいたい厚さ5mmだから、積み上げれば173cm。これぐらい身長あつたらなあという高さだが、便所の中に高々と積み上げられたSPAから考えると、こんなものかとも思う。また1冊の値段は350円、この値段は前と変わってないと思う。よつてこの7年間に投入した金額は121450円。これは浜勝のチキンカツに換算すると、約160食分。一年間、2日に1度は夕飯にチキンカツを食べる金額だ。でも、2日に1度のチキンカツはカンベンだなあ。こうやつて計算してみると、うーん、くだらん。明日(というか今日)TECOMの4回目なのにこんなことしてて良いのだろうか。でも、試験前つて妙にくだらないことをやりたくなるもんDA・YO・NE!

昔、SPAの連載コラムに面白いことが書いてあつた。人間の精神年齢は平均寿命に左右される、というものである。例えば大政奉還のときの坂本竜馬の年齢は32歳、伊藤博文が岩倉遣外使節団の副使として欧米諸国を巡歴したときの年齢は30歳、桶狭間の戦いのときの織田信長の年齢に

いたっては26歳である。現在24歳の自分としては、ホントかよって言う若さなんだけれども、この時代の平均年齢は40台だったろうから、平均寿命からすると半分を過ぎたぐらいだ。平均寿命がだいたい80歳の現代の感覚で言うと40台から50台になるから、そう考えれば納得がいくような気がする。ところで、先日あるアメリカのシンクタンクが21世紀の日本の平均寿命は93歳になる、と発表していた。まあ、独自の方法で計算したらしいからちよつと怪しいけど、もし本当にそうだったら男としてのピークは50台から60台になる。結構気が遠くなるね。

現在、国家試験に向けて猛勉強の最中だが（早く勉強せんとヤバいつて！）、晴れて合格すればついに学生生活も終わりである。思えばこの24年間、結局のところはペーパーテストで評価されてきた。卒業すればそういつた評価はまったく意味をなさなくなるだろう。すごく開放感はあるが、これからはどういう基準で評価されるのだろうかと考えると、楽しみでもあるが不安でもある。すくなくともポート部7年間で得た経験は、プラスにはなってもマイナスになることはないだろう。たぶん。後輩の部員たちは、是非、辞めずにがんばってほしい。

最後に。今までご迷惑をおかけした皆さん、どうもすいませんでした。ふつつかものですが、これからもよろしく願います。

## 一言。

6年 森 創

この七年間を振り返ると、まあ結構波乱万丈だったなあ、と感慨深いです。（だからここに書きちゃうより小説か芝居の台本にした方が身入りもあるしなあ、などと馬鹿なコト考えたりして。）まあ何にも書かないのも気がひけるので一言書きます。OBであることを実感する瞬間。飲み会で思い出を語る自分に気付くとき。現場離れると「過去」しか語れないから。なんか書いてて寂しくなるなあ。

あ、でもそのかけがえのない「過去」を共にした友ができるから良いんだけどね。と言うわけで消火器撒かない程度に暴れて伝説と友を創りましょ。



# N・I・C・O・L・E

6年 ウイクアンロン

「哀れ神にも見放された者よ、御身の思念は御身のうち  
に、もう一つの生き物を作り上げた。己の熱烈な一念に  
よつて、かく自らプロメテウスとなった人間。禿鷹は永遠  
に彼の心臓を食らつて生きる、しかも彼自らの創造物たる  
その禿鷹によつて」

メルヴィル、「白鯨」より。

「時よ止まれ、お前は余りにも美しい」これが、今までの  
ポート部生活、及び大学生活6年間の素直な感想だ。これ  
以上の言葉は見付かりっこない。その思いも空しく、これ  
からも時は流れていくだろう。もつともシャウペンハウエ  
ルに言わせれば、「時」という概念はその不可侵性、非物理  
性ゆえ、この世には存在しないらしいが、面倒くさいので  
その話はまた別の機会に。

「時」、この不条理な世界の中の唯一の条理。もつとも時  
が条理的なのはその不可侵さゆえだろう。人はその存在を  
恐れ崇める、そして「虚無」と「永遠」、相反する二つの概  
念が同一のものから創造される。よくよく考えれば、僕た  
ちが学ぶ医学というものは、突き詰めれば「永遠」を求め

るための学問なのかもしれない。バベルの塔のレンガを一  
つでも多く積み重ねる時間を稼ぐための学問、それが医学  
なのだろう、と時に思うことがある。それが有意義なこと  
か否かは、まさに「神のみぞ知る」だ。

それでも、姿ある物いつかは滅びる。じゃあ、何のため  
に生き長らえようとするか。「永遠」なるものは如何なる  
形で、如何なる場所に存在するのか。古代ギリシャ時代か  
らの人類最大のテーマだ。何百、何千という聡明な賢者達  
ですら答えが見つからなかった質問に、僕ごときが答えを  
出せるはずがない。

これはあくまで僕個人の思惟だが、永遠なるものがある  
としたら、それは「過去」ではないだろうかと思う。人が成  
してきた行為は様々な形を持って現代、そして未来へと残  
る。そしてそれは不可侵であり非物理的でもある。そう、  
「時」と全く同一の性質を持つものだ。そしてそれはその  
質、量に比例して強く残る。人はいつか死ぬと分かってい  
ても皆懸命に生きようとするのは、こうした生の中に「永  
遠」なる何かを形而上的に感じているからなのではないか  
と思う。

昔も、今も、そしてこれから、僕は様々な行為を成し  
ながら生きていくことだろう。そしてそれが質的・量的に

も永遠に残す価値のあるものでありたいと思う。そして命の灯火が消えるその瞬間も、こう言つて消えたいものだ、「時よ止まれ、お前はあまりにも美しい」と。

最後に、これからの長崎大学医学部漕艇部を担う全ての人々に、この餞の言葉を贈らう。願わくば、我々の栄光の日々が永遠に続かんことを。

修行証書：

「芸術は長く、人生は短い。判断は難く、機会は束の間である。行為は易しく、思考は難い。思考しながら行動するのは不快である。始まりはすべて楽しく、入口は期待の場である。少年は驚嘆し、印象は少年を決定する。少年は遊びつつ学び、真剣なるものは少年を驚かす。模倣は生得のものであるが、何を模倣すべきかを知るのは容易ではない。適切なるものを見出すことは稀であり、それが評価されることはさらに稀である。山頂は我々の心をひくが、そこに登る階段には心をひかない。我々は山頂を仰ぎ見つつ、平地を歩むことを好む。芸術の一部は学びうるが、芸術家はすべてを必要とする。芸術を半ばしか知らぬ者は常に迷い、多くを語る。芸術を完全に所有するものは行為するのみで、語ることは稀であるか、あるいは後で語る。前者は秘密を持たず、力を持たない。彼らの説くところは、焼いたパンの如く口当たりがよく、一日の飢えを満たすに

足りる。しかし小麦を蒔くことはできず、穀種を碾いてはならない。言葉はよい、しかし言葉は最善のものではない。最善のものは言葉によつては明らかにならない。行為を生み出す精神が最高のものである行為は精神によつてのみ理解され、再現される。誰も、正しく行為しているときは、己の為すことを知らない。しかし正しくないことは、我々は常に意識している。旗印を掲げることによつてのみ行動するものは、術学者か、偽善者か、あるいはいかさま師である。こうした者の数は多く、徒党を組むことを好む。彼らの饒舌は修業中の者をひるませる。彼らの頑固な凡庸主義は、最善の者をも不安に陥れる。真の芸術かの教えは核心を開示する。言葉の不足するところは、行為が語る。真の修行者は、既知の者から未知の者を展開することを学び、かくて、師に近づく」

ゲーテ、「ウィルヘルム・マイスターの修業時代」より

# 雑感

6年 松本 周平

この間本を読んで面白かったことを一つ書いてみる。

昔、日本のヤクザがフランスのギャングと手を組んで現金輸送車を襲って逮捕されるといふ事件があったそうだが、そのヤクザはフランス語が堪能で、その特技をいかしてフランスで輸送車強奪のプロと意気投合して犯行に及んだという話である。別にフランスとは縁もゆかりもなさそうなそのヤクザが何故フランス語を使いこなしたかという疑問がここでわいてくるが、かれは麻薬関係でフランスにて以前御用となつたことがあり、そのときフランスの刑務所で二年程服役していた際一生懸命フランス語を勉強し、服役後その能力をビジネスにいかすことが出来たという事である。

で、何がいいたいかという、語学修得という、我々日本人が苦手としているもののエッセンスは結局これに尽きるということである。そのヤクザは、全く言葉もわからぬ異国の刑務所に放り込まれ、周りにはごつい白人黒人の人達に囲まれ、おたおたしてようものならそれこそカマの一つも掘られかねない極限状態にあつただろう。彼はそういう生きるか死ぬかの切羽詰まつた状態に置かれ、辞書を片手に必死でフランス語をマスターしようとしたに違いない。

結局日本人が一般的に語学修得を断念してしまうのは、初期の段階でそれこそ刑務所なみの、ある意味異常で切羽詰まつた環境を設定するのに失敗しているからだと思われる。このような環境というのは、たとえ自分の身をニューヨークに置いたとしても必ずしも得られるものではない。ニューヨークには英語なんて知らなくても平気で生活している人などいくらでもいるそうだ。たとえば外国にいったとしてもその国の言語を使わずに生活する方法は見つかるし、それを見つかるほうがひとつの外国語をマスターするより楽である。それこそ英語をマスターしたかったら、アメリカで何かやらかして、とつ捕まつて現地の刑務所にはいるのが純粹にベストな方法なのではないかとき考えた。赤ん坊でも自分の国の言葉を覚えるんだからできないはずはないなどという詭弁を弄する人もいるが、そんな甘くはないと思う。赤ん坊という、若々しくて誰と接するにも偏見を持つことのない脳みそが、その先十年近くの月日を使って言語を修得していくのだから、我々成人の、しかも凡人には、アメリカの刑務所か、単身アメリカに漂着したジョン万次郎がおかれた位の環境設定が必要であると思う。

振り返つて自分のことに移るが、最近僕は自分がヤバイぐらいの、もう終わっているんじゃないかという位のイキオイのナマケモノ、ものぐさであることを再認識している。偉そうなことを書いたが、勿論ぼくは英語を始め外国

語など修得していないし、日本語すら怪しいとたびたび指摘を受けてきた。社会人になるのがとても不安だが、こんな僕がこの先語学に限らず何かを修得し、成し遂げるには、何か特殊な環境に自分をうまく追い込んでいく必要があるように感じている。というわけで卒業記念(?)に初めて長めの文を書いてみた次第である。

## ボートと酒

6年 諸藤 陽一

これが私の大学生活の全てでした。

努力したから勝てるとは限らない。しかし、努力しないことには何も始まらない。

後輩のみんな、勝っておいしいお酒を飲んで下さい。

5年 青山 英和

## ボート部への積年の

### 怨みを今ここに！！

5年 蓬萊 彰士

太もものローパンの跡が消えない。責任とつてくれ！！

ボート部やってる意味をみんな考えたらと思う。個人的には、1年のときに読んだ部誌(97年)に治さんが書いてた事を頭に置いて漕いどりました。

終えてみて感じるんだけど、自分に何が残るか考えるよりその時々、1個1個クリアしていく中で盛り上げてく工夫すりゃ良かったみたい。他人事のように参加してた時間があったのが勿体無かったな、つてのはよく思う。

学年下でも、言いたいこと、やりたいこと、すべし。

n  
・  
p  
・

5年 西條 知見

# こころ

5年 高木 理博

組織に所属するという事は、自由を失う事である。然し、組織に所属するもしないも個人の自由である。

ただでさえ無数の組織に所属して自由を奪われているのにもかかわらず、5年前、僕はまたボート部という組織に所属した。莫大な時間を制約され、生活の大半を注ぎ込んで、何も好き好んでこんなきつい事をするのではない。いったいこんな事を5年間も続けて、何が得られるのだろうか？この時間と労力をバイトに使ったら、5年後には世界一周ぐらいできるのではなからうか？と思つた夜もあつた。でも、翌朝5時には体育館前に集合している、小心者の僕がいた。辞める事は、大きな変化であり、それを受け入れるには勇気がある。小心であつたが故に、矛盾を感じ、悩んだ時期をやり過ぎたのかもしれない。

その後は、自分と同じように、自ら自由を失つた後輩達が増えてくるにつれ、だんだん組織のことに責任を感じてくる様になった。組織としての目に見える形の結果が自分達に求められているのだと考えるようになり、結果がでない事に悔しさよりも責任を感じていた。あの責任はいつたに誰に対して感じていたのだろうか？

少なくとも、何かに責任を感じやっていたのでは、肝心

なところで縮み上がってしまい結果はでない。本当に必要なのは責任感ではなく、個人の欲望なのである。そう気付いたとき、ずいぶんと気が楽になった。そして、全ては自分の責任において、自らの為に結果を望んだ。

結局、自由を奪われて得た物は、もう一つの自由であつた。

## 部員雑感

5年 田辺 孝大

現役部員のみなさん、終わってみればあつというまで。各自が各ポジションで全力を尽くしてくれる事を期待しています。がんばれ！！

# 回顧

5年 渡辺 庸平

標準的なボート部員というのは入部してから引退するまで果たして何本の漕ぎ（水にオールをつけて、漕ぎ、出す）をするのだろうか。それこそ何万回という漕ぎをしてるといふのにその中で覚えているものがほとんどない、というのはどうしたものだろう。試合についても同じであり、何十というレースをしてきたのに覚えていることはほんの少いである。漕ぎの記憶がないのに反して、なぜかよく記憶に残っているのが漕ぎの最中のふとしたことだ。その中でもっとも古いものは1年生の頃の琵琶湖の西医体でのこと。1日目、ナックルで出場した僕ら1年クルーは早くも予選に負けて、敗復に出場した。そのレースで、まだ数回しか練習したことがないスタートローイングではじまり、500も過ぎようというあたりでふと横を見たとき、「隣と競っている！」と思つた瞬間である。そのときはもう無我夢中であつたから思つたと言うより、よぎつたという感じであるが、これがもっとも古い記憶である。レースは負けだつた。その日の夜の全体ミーティングでクルーのボックスをした森さんが、「僕らの夏は終わりました。」といつた。あと、よく覚えているのが2年生の宮崎の西医体でのこと。どのレースかは覚えてないが、2番の僕の前で漕い

でいた3番の田辺が「蹴るぞ、蹴るぞ!!」と叫んだこと。もしかするとこれが一番記憶に残っている事かもしれない。とりあえずびつくりした。その西医体ではBクルーとして出場していて、たしかBクルーに上がったのが県漕のあとだつた。とりあえず練習についていくのがやつとで他のことは手に着いていかなかった。とくに2解剖とか。そのころは、パドルというのはただガムシヤラに漕げばいいと思つていたが、これだとせいぜい500Mが限度であとの500Mは死んでいた。そんな中で聞いた「蹴るぞ、蹴るぞ!!」であつた。がんばらねば、という気持ちと「何でそんな元気なの？」という気持ちと微妙に混じつた瞬間だつた。その西医体の夏合宿中、僕の左手薬指はまめがつぶれ感染を起こして2倍ほどに膨れた。大病院に診せに行ったら、名札に脳外と書いてある若い医者にさんざんピンセットでいじられたあげく、包帯しただけで、2、3千円払つて帰された。また夏合宿の練習で、黒島ロウング中、宇宙人のような物体が浮かんでいるのを発見してみんなでいじくったりしたが、すぐロウングは再開された。あれは何だつたのだろうか。その他にも思い出されるのはこんなふとしたことばかりである。

2、3年生を過ぎると、とくに大きな記憶というものはない。それから幹部を終わるまではボートを漕ぐだけではなく、それにまつわる色々なことに追われてしまつていたからかもしれない。

引退した今、ボートのことを考えるとこんなふとしたことばかり思い出すのは皮肉かもしれないが、まあ他のことは写真が思い出させてくれるだろう。現役最後の写真が幹部全員で、充実した表情で写っているのがとてもよかった。とりあえず「終わり」である。

## 「四半世紀・・・」

2年 猪狩 圭介

今年で25歳になりました。やっと四半世紀生きたのかあ・・・。  
そろそろ嫁を探さねば・・・。感染の再試受けてる場合じゃないな、これは。

## 雑感

2年 小河原 大樹

今年の年末にボート部に復帰しました。やはり、2年間のブランクは自分が考えていたよりも大きく影響し、体力

的にも精神的にも練習についていけない事が多々あった。2年前、体調を崩し、精神的に自分を追い込んでやめてしまったので、今回は、徐々にマイペースで練習の負荷を上げていこうと思う。やり過ぎ注意！

## 雑感

4年 崎元 晋

Aクルーにのって三年目。練習、合宿と数限り無い時間をクルーと一緒に過ごす中で、話題の中で最も多いものひとつに「定食屋についてのこと」がある。まあだいたい想像がつくと思うだろうが、自分の行ったことのある定食屋について思い思いに喋るだけの、他愛のない会話である。

ところで人にはそれぞれ好みの定食屋というものがある。僕の場合は皆がしっているとおり本原にある『イサオ』であり、あそここの斜視ぎみのおっさんとは入学以来の付き合いである。

その『イサオ』には数限り無い特徴があり、それを一部挙げるとする

・店の入り口からトイレ臭。



・便所に入ると眼痛をきたす。(アンモニアで。)  
・店内にはシヨウジョウバエ、ゴキブリ、シロアリ、ネコ、など様々な生き物がいる。  
・あの『アクシヨン』という雑誌はいつたいたれが読むのか？

・斜視ぎみのマスターの名前は？(僕は一度だけ「さだちやーん！」と呼ばれるのを聞いたことがある。)

・いつもいるあのハゲおやじはマスターとどういう関係なのか？

・イサオグループの規模と経営状況。(琴海に『イサオ』という飲み屋があり、浜口のいさおとも関係は深いと思われる。)

・何人の人を食中毒に落とし入れれば気が済むのか？(00年度Aクルーでは西医体前に「イサオ禁止令」なるものが出された。)

・最大の謎、あのカーテンのむこうの厨房には一体どのような空間がひろがっているのか？

以上、ほとんど疑問点を挙げるだけで終わってしまったが、あの店はこれ以外の数限り無い可能性を秘めていることを私は信じてならない。

僕以外のポート部員でイサオ愛用者を考えると、食中毒をくらいながらもまだイサオに通い続けている高木さん、白いセリ力でわかる豊田、俺が見た中で最初のおかわりを

したワサノ、つり好きがバレバレの高田などの顔が浮かんでは消えてゆく。これから入ってくるであろうポート部員はこの伝統を絶やしてはならないと私は思う。

## 21世紀の決意

3年 田浦 康明

今日(2000年12月6日)、体重を測ったら54キロだった。ナイスな体重!...というわけではなくて、服を着てそれなんで、実質は53キロくらいか。昼飯食わない生活の成果がでてるわけだけど、なぜ食わないのかと問われれば金がないだけ。来年は「儉約の年」としよう。

さて、とうとうAクルーのコックスになってしまい、僕のポート部人生も残りわずかなので、自分なりにちよつと目標をつくろう。

「主務んなったし、シーズン入ったら忙しいやろうなあ。(思考中)。そういや山道がおるやん。彼に任せよつ。あの働き者なら俺より役に立つやろ。まあ渋谷さんには劣るやろうけど(というよりあの人ですごすぎ)。」

「クルーもすっかり変わったなあ。まだこのクルーで漕い

で間もないのに、S君のおならの匂いには驚かされる。彼はバウには乗せんどこ。」

「春からは合宿。気が重いけど、今のうちに何か暇つぶしの手段を考えんとなあ。(思考中)。ゲーム! って、今更やる気ない。(再思考中)。勉強! 却下。(再々思考中)。マング喫茶? 却下。(再々再思考中)。やつぱり料理になるんか?」

「そついや来年は九山と西医体は九州でやるんか。試合後のお楽しみを考えると、佐賀では、イカ、温泉。福岡では、ラーメン、中州、キャナルシティ、その他いろいろ。つてその前にいい成績残さないかん。」

というわけで、2001年の目標。  
『合宿におけるカレー、ハヤシライス、シチューを必要としない、おいしい料理の確立』

## 雑感

3年 山口 仁平

今年は、本当にいろんなことがあった年になった。まさか自分が教養のしかも選択科目で留年するとは、夢にも思つてなかった。二年生の時は、解剖をもう一度したくない一心でひたすら真面目に勉強した。留年したくなくて、追いつめられてずるいことする人もいたけど、ずるいことするくらいなら留年しようと思つていたから必死で勉強した。ポート部は、確かに時間的な拘束時間が長いので勉強する時間がとれないといつてやめようとする人間が必ずでる。だから自分なりにそういう奴をひきとめるには、どうしたらいいかと考えたら、やつぱりもともとあんまり優秀な方ではない自分がポートをちゃんとしながら、ずるいこととせずにちゃんと試験に受かつて進級できることをしめすことだと思つた。そこで真面目にやつてきたのに自分の不注意でこうなり今でも時々とてもくやしい。イギリスに行つて、いろんな楽しいことがあつたし、日本にいたら絶対にできなかった友達に会えたり、絶対に理解できなかった生き方が理解できるようにもなつたしそれはよかつた。でも時々くやしいと言うのは、勉強ができないのをポート部のせいにし、自分のやりたいことができなことをポート部のせいにする連中に自分を例にだして両立が可

能なことを示すことができなからだ。自分の考えとしては、まずボートをやると言った自分の言葉に自分で責任を持つて欲しいと思う。やりたいことがあるからと言つて時間があるくせに、まずその時間の穴埋めをボートに求め、自分が勉強せずに落ちた試験をボートの練習に求める（つまり朝練の後に授業中寝ることもボート部の責任だとも言うのでしようか）。別にやりたいことがあるのはかまわないし、やったらいいと思う。ただその為に払わなければならない犠牲はボートに求めるものでではなく自分で払うものだと思う。もしドクターになつた後で、どうしても患者の為に時間を割かなければならない時に自分のやりたいことがあるつて時がきたら、そいつはどうするんでしようか？やりたいことだけを優先するような奴は、ボートを辞めるはじめくらいはつけて欲しいと思う。ボート部を辞めるといったらそりゃーキャプテン以下みんな止めるだろう。でも自分のやりたいことだけを追求したいなら辞めてから追求して欲しい。どっちも中途半端のまま責任だけをボートになすりつけ、後輩に先輩風ふかすだけなんてことは、やめて欲しい。はつきり言つて男とは思えない。こんな子供でも分かる話を書こうと思つたのは、当然のことながらこれを分かつてない奴がいるからだ。願わくは、僕の内慢が引退まで続きますように、アーメン。

## 今年の日標

3年 近藤 学

- ・エルゴ7分切ります。
- ・ベンプレ100kgあげます。
- ・なるべく不平は言いません、

田浦さん。

# 故障について

2年 末下 雅也

99年の夏に腰を故障し、1年間コックスをした。1シー  
ズンのコックスの経験は、コックスの大変さも分かった  
が、それ以上にローヤーの故障防止の大切さを実感した。

俺は1年後に復帰する事になったが、もし他の人が故障  
したら、その人がいつ復帰できるかはわからないし、復帰  
した後も、故障前の体力を戻すのは至難の業だと思う。

そこで、ストレッチや腹筋、背筋の強化を提案したいと  
思う。ストレッチをする時間を確保するため、練習前の集  
合や子々川についてからの動作を機敏にすべきである。ま  
た、1年生にきちんとストレッチの仕方を教えたり、時に  
は2人でストレッチをしてもいいと思う。腹筋背筋も自分  
の体を守るためという意識が大事だと思う。

ボート部は全員、試合に勝つ事を目標としているが、故  
障者を出さないという事も同様に大事な目標にしてい  
いと思う。

# 2001年俺物語

3年 豊田 啓介

どうせ発行は一年遅れちゃうんだから、今のうちに今年  
の試合結果を書いとこつと。

九山・・・一艇レース。棄権しようかと考えるが、メダル  
欲しさに出る。優勝。

九朝・・・練習でへたり気味のときに試合。声だけ「蹴ろ  
ー」と張り上げながら、コータローだけに漕が  
せる。予選敗退。試合後コータローを激しく責  
める。ああ、俺の株が下がってく。

県漕・・・「ドーセ渡辺さん（園総会）たちが優勝しちゃう  
んだよ。やるだけムダムダ。」

すると、コータロー「T田さんいい加減にして  
下さいよ！（怒）」

「チツ」と舌打って「俺はダリーンだよ」と逆ギ  
レ。最悪の雰囲気の中レース。当然ドベ。

西医体・・・練習もろくにせず臨む。コータローは呆れて、  
「T田さんにはもうついて行けません」

すると俺は「何だあ、俺の体重がおもてえから  
キレてんのか。」

「そうだよ！あんたデブ過ぎんだよ。」

「何だと、コラア！」と俺は得意のパンチを出す。

ああ、後二年待てばキャプテンかもしれないかったのにと後悔するも時既に遅く、俺は退部。ポ  
ート人生終結！

(これはあくまでもT田くんが4年になったと仮定したときのフィクションです。 by 豊田)

## 雑感

2年 山道 忍

僕は去年1年間毎月2万ずつ貯金していた。それがこの間満期になっていて、通帳に振り込まれていた。今は何に使おうか悩んでいる。念願の単車を買うか、愛車のシビツクのチューニング代にするか、それとも他の何かになるのか。今のこの寒い時期、単車が安くなっている、買うとしても早めに決断しなければならぬ。でも、もうちよつと悩んでみようと思う。

## || ビツグニュース !!

### 医学部ポート部にも

### 新しい風が? ||

3年 吉武 記一

2000年12月22日、長崎大学医学部長(斉藤寛)が、

「3年制の医療技術短期大学の入学募集を2001年度で停止し、2004年3月に廃止。かわりに、4年制の医学部保健学科を設置し、新入生を2002年度から募集する。」と発表。社会的にニーズの高まっているチーム医療を効果的に学ぶため、入門科目・実習・一部の科目を医学部の生徒と共修するとし、将来的には、医学部の敷地内に新校舎を建設する予定のよう。

底冷えのする筋トレルームで、一人ベンチプレスを挙げている僕は「これはいったい!?」とビックリして、あやうくバーベルを落としそうになった。あと五年早くしてくれてたら・・・。

でも、例えば、何年後かに結婚式をしたら、保健学科のポート部員も入り乱れた蛇踊りを見れるのかな?なんて

思うと、ドキドキワクワク。女の子が混じってたら、どうしよう？なんて、いらぬ心配をしちゃったりも。(2000年度勧誘隊長)を務めさせていただいた僕としては、ボート部にも新しい風が？なんてちよつと期待。でも、そういう時でこそ、ボート部はやっぱり古風であるべきなのかも？なんて思ったりも、あまりしていなかつたりしながらエルゴをひいている毎日です。

## 僕の誕生日

2年 和佐野 喜也

僕の誕生日

なぜかみんなは知っている

なぜかみんなは嬉しそう

それはきつと僕が未知の世界に踏み込むのを

祝福してくれているのだろう

僕の誕生日

なぜかラグビー部にも有名だ

なぜか野郎どもにはかり知られている

みんなは遠い先のことと思っっているかも知れないが

案外はやいものなのだ

## 雑感

2年 高田 潤

去年の部誌に「来期は軽量級でエルゴ大会に参加する」といった主旨のことを書きましたが、今年のエルゴ大会まで1週間を切った今、無念の重量級です。

九山はスカルで出場予定ですが、「見た感じよりは早いね。」と評されるように頑張りたいと思います。そして来期こそ軽量級で……以上

## 雑感

1年 荒木 孝太郎

サーブに乗ってみたかった。(試乗会)

大石さんがいると思わなかった。(満寿美)

かなりやる気がでてきた。(九朝)

コックスに驚いた。(県漕、西医体)

来年も頑張るぞ。

以上

# オフスプ

1年 夏田 孔史

早いもので、私が大学に入学してから、もうすぐ十ヶ月になろうとしています。今思ってもあつという間のこと、これから先の大学生活もこんな調子で過ぎてしまうものかと、少し不安を感じている今日この頃です。

正直な話、高校を卒業した段階では、ボート部にはいるという事は全く頭にありませんでした。それどころか、ボート部というものはバリバリの体育会系であり、洒落にならない程きつい部であり、筋肉の塊であるというのが率直なイメージでした。実際そのイメージは八割方あたっていましたが、まさか自分がその中に身を置くことになるとは……

この十ヶ月で自分は大きく変化を遂げたと思います。肉体的（最近どうも一度止まった身長がまた伸びだしているようです）にも、精神的にも。ボートと酒をとつたら何も残らない大学生活ですが、高校の頃よりもずっと充実している気がします。今、オフスプリングの曲がかかっています。そういえば、オフスプを聞くようになったのも、ボートに関わった事による小さな変化かもしれませんね。

練習は相変わらずきついですが、これからも頑張りたいです。最後に先輩方、今年の一年生九十五人の中でも特に

やる気を感じられなかった自分を拾ってくれてありがとうございます。今度の勧誘が楽しみです。

## 半額の罫

1年 冬野 誠也

我が家の近くに某寿司屋がある。この寿司屋では「半額カムバックセール」とか何とか云ふものを買って、買った寿司の代金の半額を「金券」で返してくれると云ふもの。しかし、よく考えてみるとこれはまやかしかである事がわかる。若しこれが「現金」であるとする。例へば500円の寿司6個食べたなら3000円で1500円「現金」で返ってくるので、1500円で6個の寿司が食べれた事になるので、 $1500 \div 6 = 250$ 円で半額になっている。ところが「金券」の場合、金券1500円分で500円の寿司が3個貰える。従って、3000円で6+3=9個の寿司が買った事になり、 $3000 \div 9 = 333.33$ で半額にならぬのである。この場合、3000円の金券をくれれば $3000 \div (6+6) = 250$ で半額になる。皆様も騙されぬやうにしませう。

# 長崎大学医学部漕艇部OB会決算書

平成12年度（2月末現在）

収入		備考
前期繰越	505,796	
会費	2,360,000	59名
部誌製作寄付	390,000	
預金利息	318	
雑収	10,000	
合計	3,266,114	

支出		備考
入生勧誘援	200,000	
九山経費	95,000	エントリー費等
九朝経費	57,000	エントリー費、運搬費等
関朝遠征費	250,000	同上
西医体経費	696,200	宿泊費、エントリー費等
艇運送料	90,000	
漕艇保険	140,200	
コーチ料	120,000	12年度分
県漕艇協会費	45,000	
部誌製作経費	234,139	漕魂
通信費	45,276	切手、送金料等
雑費	20,650	御中元、領収証他
次期繰越金	1,272,649	
合計	3,266,114	



# 長崎大学医学部漕艇部部費決算書

(平成12年8月末現在)

収入		備考
前期繰越	1,175	
部費	432,000	月額 2000 円
御寄付	90,000	先生方より
その他	33,781	飲み会の余りなど
合計	556,956	

支出		備考
ガソリン	216,176	子々川への移動
カメラ・ビデオ	16,233	テープ・フィルム等
モーターボート	45,233	ガソリン・オイル等
お土産	41,510	
卒業式費用	22,255	花代
艇部品・修理費・工具代	58,242	リガー・工具等
養育費	62,692	1年生の教養合宿など
遠征関係費	22,000	
飲み会	51,469	駅伝大会等
その他	10,173	文書代など
合計	545,973	

収入 556,956 - 支出 545,973 = 次期繰越金 10,983

# 長崎大学医学部漕艇部OB会会則

第一条 本会は長崎大学医学部漕艇部OB会と称する。

第二条 本会の事務所は、長崎大学医学部漕艇部に置く。

第三条 本会の目的は、漕艇部の円滑な運営の為に、精神的、物理的な援助を行い、あわせて部員の身体の錬成ならびに陶冶を図り、会員相互の親睦をはかるものである。

第四条 本会は、漕艇部のOBからなる一般会員ならびに本会の主旨に賛同する賛助会員をもって組織する。

第五条 本会に下記の役員を置く。

- (1) 会長 一名
- (2) 副会長 二名
- (3) 顧問 若干名
- (4) 総務 若干名
- (5) 会計監査 一名

第六条 会長、副会長、総務、会計監査はOB会において互選し、顧問は、会長が委嘱する。

第七条 役員の内任期は、一年とする。ただし、再選は妨げない。

第八条 漕艇部顧問教官は、OB会に出席し、部の事情を説明しなければならない。

第九条 総会は、年に一度これを開くものとする。

第十条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもって当てる。

第十一条 本会の会費は、一般会員より徴収し、会費は年度ごとに総会において決定する。

第十二条 本会の会計年度は、毎年四月一日より始まり翌年三月三十一日に終わる。

第十三条 本会の予算、決算は、総会の承認を得なければならない。

第十四条 本会には下記の帳簿を備える。(1) 会則 (2) 会員名簿 (3) 会計簿

第十五条 会則の変更は、総会の承認を得なければならない。

付則 この会則は、昭和五十四年四月一日から施行する。  
(昭和五十五年三月二十二日改正)

## 【長崎大学医学部漕艇部 OB 会役員名簿】

氏名	勤務先 自宅	勤務先電話番号 自宅電話番号	役職 備考
村上 文也	850-0036 長崎市五島町 3-3-202 852-8117 長崎市平野町 1-25	095-826-7757 095-847-5132	会長
須山 弘文	850-0803 玉木女子短大：長崎市風頭 1-33 852-8065 長崎市横尾二丁目 4-5	095-822-8694 095-856-1321	顧問 前法医学教授
✓ 高久 功	850-0963 長崎市ダイヤランド一丁目 44-15	095-879-3699	顧問 前眼科学教授
尾崎 正若	861-1102 熊本県菊池郡西合志町須屋 2740-30	096-242-2761	顧問 前第二薬理教授
山口 光次	852-8145 長崎市昭和町二丁目 5-14	095-844-5272	顧問 県ボート協会会長
吉田 恒雄	850-0811 長崎市矢の平町 2-19-26	095-825-4979	顧問 県ボート協会理事長
井上健一郎	850-0045 井上病院：長崎市宝町 <del>8-9</del> <sup>6-12</sup> 852-8102 長崎市坂本 1-2-5	095-844-1281 095-846-2218	事務局担当
中桶 了太	852-8102 長崎大学医学部細菌学教室：長崎市坂本一丁目 12-4 857-1151 長崎市三原町 12-2 三原グリーンハイツ 202 号	095-849-7043 095-846-6999	世話人
岡 真一郎	857-0026 千住病院：佐世保市宮地町 5-5 857-0041 佐世保市木場田町 8-21-402 号	0956-24-1010 0956-25-8684	世話人

## 【長崎大学医学部漕艇部 OB 会賛助会員名簿】

氏名	自宅	自宅電話番号	備考 卒業年度
井上 満治	852-8052 長崎市岩屋町17-1	095-856-2711	開業 S19
岡本 英雄	855-0831 島原市湊道町二丁目7024	0957-62-2452	開業 S7
片伯部 貢	852-8132 長崎市扇町2-22	095-844-3043	開業 S37
佐藤 安雄	850-0901 長崎市本石灰町 5-11	095-822-0321	開業 日大
鈴谷 悦堂	852-8033 長崎市緑が丘町 1-4	095-846-2052	開業 S19
高木聡一郎	850-0801 長崎市八幡町4-18	095-824-0590	開業 S20
石橋 盟士	852-8155 長崎市中園町22-17	095-845-6181	開業 S30
大須賀 浩	852-8002 長崎市弁天町 17-1	095-861-3576	開業 S30

## 【長崎大学医学部漕艇部役員名簿】

氏名	連絡先住所	連絡先電話番号 第2電話番号	役職
丹羽 正美	852-8523 長崎大学医学部第1薬理教室:長崎市坂本1-12-4	095-849-7041	顧問
氏家 祐二	851-2126 西彼杵郡長与町吉牟田郷1163番地37長崎ニュータウン30-8	095-883-8875	コーチ
崎元 晋	852-8112 長崎市本尾町フォレストビル302	095-846-0290 090-8916-2872	主将
近藤 学	852-8014 長崎市竹の久保町1-5	095-862-0032 090-1082-3543	副主将
田浦 康明	852-8116 長崎市平和町9-2森川ビル402	095-847-7336 090-3736-0492	主務

氏名	勤務先 自宅	勤務先電話番号 自宅電話番号	E-mail address	医局 卒業年度
長西 靖	731-5125 長西耳鼻咽喉科医院：広島市佐伯区五日市駅前 1-11-37 731-5125 広島市佐伯区五日市駅前 1-4-5-811	082-923-8122 082-923-5839		S46
冬野 誠三	847-0844 なばたけ冬野クリニック：唐津市菜畑 3660-1 847-0844 唐津市菜畑 4208-57	0955-75-2220 0955-74-7378	✕ fuyuno@matsuronet.co.jp	S48
✓ 杉本 恵一良	593-0003 杉本内科クリニック：堺市鳳西町 1 丁 -92-2 592-0003 大阪府高石市東羽衣 4-5-4	0722-62-5073 0722-64-8828	○ kema@violet.plala.or.jp	S49
峰 雅宣	854-0071 健保諫早総合病院：諫早市永昌東町 24-1 852-8046 長崎市柳谷町 4-13	0957-22-1380 095-847-6031		第 1 内科 S49
✓ 朝戸 末男	891-9112 朝戸病院：鹿児島県大島郡和泊町和泊 14 891-9112 鹿児島県大島郡和泊町石川平 14	0997-92-1131 0997-92-2280	○ sasato@nisiq.net	S50
内田 隆寿	平戸青州会病院 859-4826 長崎県北松浦郡田平町野田郷 3-6 コーポ野田 3 号	0950-57-2155		第 2 外科 S50
桜井 一枝	720-0822 みつふじ小児科内科医院：福山市川口町 2-22-11 721-0952 広島県福山市曙町 5 丁目 24-38	0849-53-0307 0849-54-4454		小児科 S50
瀬戸 信二	852-8102 長大附属病院第 3 内科：長崎市坂本 1-7-1 852-8052 長崎市岩屋町 17-2	095-849-7288 095-857-1808	✕ seto@net.nagasaki-u.ac.jp	第 3 内科 S50
早田 篤	852-8022 長崎市立乳児院：長崎市富士見町 6-22 851-0121 長崎市宿町 616 長崎市立ひみやすらぎ荘	095-861-1418 095-838-2308		小児科 S50
✓ 田川 泰	852-8102 長崎大学医療短大：長崎市坂本 1-7-1 851-2128 長崎県西彼杵郡長与町嬉里郷 98-12	095-849-4990 095-887-1391	○ tagawa@net.nagasaki-u.ac.jp	第 1 外科 S50
富海 五郎	791-8022 松山記念病院：松山市美沢 1-10-38 790-0903 松山市東野 1 丁目 6-15	089-925-3211 089-977-1812		愛媛大精神科 S50
中野 文耕	853-2301 若松国民健康保険診療所：長崎県南松浦郡若松町若松郷 281 853-2301 長崎県南松浦郡若松町若松郷 281	0959-46-3315 0959-46-3318		第 2 外科 S50
✓ 丹羽 正美	852-8523 長崎大学医学部第 1 薬理学教室：長崎市坂本 1-12-4 851-2127 長崎県西彼杵郡長与町高田郷 1613-4	095-849-7041 095-883-6395	○ niwa@net.nagasaki-u.ac.jp	第 1 薬理 S50
馬渡 一雄	850-0001 まわたり内科循環クリニック 850-0001 長崎市西山 2 丁目 9-2	095-822-0101 095-822-0101		第 3 内科 S50
石川 治	670-0936 石川医院：姫路市古二階町 135 670-0936 姫路市古二階町 12	0792-23-3270 0792-23-1307		岡山大外科 S52
川口 昭男	850-0045 井上病院：長崎市宝町 8-9 852-8046 長崎市柳谷町 14-27	095-844-1281 095-847-5529		第 1 外科 S52
神田 源太	851-0502 塚崎病院皮膚科：長崎県西彼杵郡野母崎町以下宿 2910 850-0003 長崎市片淵 1 丁目 12-7	095-894-2131 095-822-7051		皮膚科 S52
✓ 田中 精一	192-0904 八王子消化器病院：八王子市市安町 3-18-1 193-0811 八王子市上巻分方町 246-1	0426-26-5111 0426-51-7640	○ s-tanaka@xa2.so-net.ne.jp	女子医大消化器センター S52
堤 健二	834-0004 川崎病院：福岡県八女市納楚 421-1 834-0024 福岡県八女市津江 541-2 ひまわりコーポ 1-302	0943-23-3005 0943-24-5412	○ k-tutumi@mx2.tiki.ne.jp	脳外科 S52
吉良 満夫	852-8008 浜崎外科病院：長崎市曙町 3-6 852-8008 長崎市曙町 3-6	095-861-6034 095-861-7431		第 2 外科 S54
出口 正巳	530-0012 白壁美容外科：大阪市北区芝田 1-14-7 658-0003 兵庫県神戸市東灘区本山北町 6-17-45-601	06-6372-2512 078-413-5008		形成外科 S54
✓ 井上健一郎	850-0045 井上病院：長崎市宝町 6-12 852-8102 長崎市坂本 1-2-5	095-844-1281 095-846-2218	○	第 2 内科 S55
江口 圭介	857-0134 長崎労災病院：佐世保市瀬戸越 2-12-5 857-0015 佐世保市松山町 5-38	0956-49-2191 0956-22-2224	✕ eguchi22@bronze.ocn.ne.jp	第 3 内科 S55
成松 元治	856-0835 国立長崎中央病院：大村市久原 2-1001-1 852-8054 長崎市エミメント葉山町 15-7	0957-52-3121 095-857-6855	✕ narimatsu@nmc.hosp.co.jp	心臓血管外科 S55
✓ 水谷 明正	851-0301 長崎記念病院：長崎市深堀町 1-11-54 850-0963 長崎市ダイヤランド 1-36-19	095-871-1515 095-878-3807	○	第 2 外科 S55
✓ 小倉 猛	866-0826 熊本労災病院：熊本県八代市竹原町 1670 866-8533 熊本市画図町重富 744-13	0965-33-4151 096-379-7592	○ togura@lime.plala.or.jp	形成外科 S56
谷川 宗生	852-8061 長崎北病院：長崎市滑石 5-4-61 851-2127 西彼杵郡長与町高田郷 1196-122	095-857-0001 095-883-4030		第 3 内科 S56

難波 裕幸	852-8523 長崎大学医学部原研細胞：長崎市坂本 1-12-4 851-2127 長崎県西彼杵郡長与町高田郷 858-103	095-849-7115 095-883-7541		原研細胞 S56
前原 洋二	835-0024 森整形外科：福岡県山門郡瀬高町大字下庄 590 830-0047 久留米市津福本町 786-6 グランピアマンション津福 1001	0944-63-2040 0942-37-5038		S56 S56
村山 晋	515-0004 済生会松阪総合病院内科：三重県松阪市朝日町 1 区 15-6 514-0003 津市桜橋 3-53-17 津ロードリーマンション 202	0598-51-2626 059-224-0129		三重大第 1 内科 S56
山近 史郎	852-8102 長大附属病院心臓血管外科：長崎市坂本 1-7-1 850-0015 長崎市桜馬場 2 丁目 1 番 1 - 1 1 0 1	095-849-7288 095-825-3580		心臓血管外科 S57
岡田 代吉	807-0843 おかだ外科胃腸クリニック：北九州市八幡西区三ヶ森 4-9-24-605 807-0843 北九州市八幡西区三ヶ森 4-9-24-202	093-613-7188 093-613-3732		S58*
倉富 彰秀	842-0002 倉富眼科医院：佐賀県神埼郡神埼町大字田道ヶ里 2435-1	0952-52-8841		S58
末永 俊郎	801-0855 末永産婦人科麻酔科医院：北九州市門司区門司 6-15	093-321-2453 093-322-1751		S58 S58
中崎 隆行	852-8104 長崎原爆病院：長崎市茂里町 3-15 852-8102 長崎市坂本 2-18-15	095-847-1511 095-842-2391		第 1 外科 S58
永見 耕一	758-0025 永見眼科医院：山口県萩市土原 351	08382-2-0720		S58
永山 雄二	852-8523 長崎大学医学部第 1 薬理学教室：長崎市坂本 1-12-4 851-2126 長崎県西彼杵郡長与町吉無田郷 579-40	095-849-7043 095-887-2796		第 1 薬理 S58
松永 伸彦	854-0072 まつなが眼科：諫早市永昌町 43-1 854-0074 諫早市山川町 12-14	0957-25-8866 0957-27-1333		S58
今里 雅之	192-0904 八王子消化器病院：八王子市子安町 3-18-1 193-0932 八王子市緑町 900-1	0426-26-5111 0426-27-3835		女子医大消化器センター S59
小林 誠博	北九州市立八幡病院 805-0034 北九州市八幡東区清田 2 丁目 16-21-503	093-662-6565 093-651-8786		S59
平野 友久	850-0953 上戸町病院：長崎市上戸町 129 850-0963 長崎市ダイヤランド 3-28-6	095-879-0705 095-878-8913		S59
糸柳 則昭	852-8102 長大附属病院第 1 外科：長崎市坂本 1 丁目 7-1 852-8027 長崎市城山台 1-9-11	095-849-7304 095-861-3747		第 1 外科 S60
目高 真	311-3122 石崎病院：茨城県東茨城郡茨城町上石崎 4698 300-1245 茨城県稲敷郡莚崎町高崎 692-5	029-293-7155 0298-73-3382		筑波大精神科 S60
松岡 直樹	850-0832 後藤会病院：長崎市油屋町 1-21 850-0037 長崎市金屋町 9-9-1301	095-822-3151 095-829-4077		第 1 内科 S60
矢次 登	800-0344 小波瀬病院：福岡県京都郡荊田町大字新津字池ノ下 1598 803-0827 北九州市小倉北区緑ヶ丘 3-4-18-2015	09-302-4-5211 093-591-7670		整形外科 S60
高須 勝也	850-0822 愛宕病院：長崎市愛宕 4 丁目 521 859-0401 長崎県西彼杵郡多良見町化屋名 20-133	095-823-7107 0957-43-2654		第 2 外科 S61
中里 貴浩	816-0864 福岡徳州会病院消化器内科：福岡県春日市須玖北 4-5 811-2103 福岡県糟屋郡宇美町四王寺坂 3 丁目 19-5	092-573-6622 092-934-3648		内科 S61
中山 大介	852-8102 長大附属病院産婦人科：長崎市坂本 1 丁目 7-1 850-0048 長崎市上銭座町 12-2	095-849-7363 095-848-9401		産婦人科 S61
青木 幹弘	857-0056 佐世保市立総合病院：佐世保市平瀬町 9-3 857-0018 佐世保市横尾町 138	0956-24-1515 0956-22-7340		小児科 S62
石井 久敬	814-0133 福岡大学病院精神神経科：福岡市城南区七隈 7-45-1 814-0001 福岡市早良区百道浜 4-17-9	092-801-1011 092-821-7340		福岡大学精神神経科 S63
岡野 邦彦	852-8102 長大附属病院整形外科：長崎市坂本 1 丁目 7-1 852-8117 長崎市平野町 14-13 セントヒルズ平野 102 号	095-849-7384 095-849-7321		整形外科 S63
朝長 道生	843-0301 国立嬉野病院：佐賀県藤津郡嬉野町大字下宿丙 2436 843-0301 佐賀県藤津郡嬉野町大字下宿丙 2436 国立嬉野病院官舎 2-22	0954-43-1120 0954-42-3326		第 2 内科 S63
中島 寅彦	812-8582 九州大学医学部耳鼻咽喉科：福岡市東区馬出 3-1-1 814-0113 福岡市城南区田島 5-10-10	092-642-5668 092-871-5238		九大耳鼻科 S63
天野 秀明	852-8102 長大附属病院熱研内科：長崎市坂本 1 丁目 7-1 852-8027 長崎市城山台 2 丁目 30-3	095-849-7384 095-864-1101		熱研内科 H1
金色 正広	805-0061 北九州市立八幡病院：北九州市八幡東区西本町 4-18-1 805-0061 北九州市八幡東区西本町 4 丁目 15-23-705	093-662-6565		麻酔科 H1

吉川 公正	804-0012 健和会中原病院：北九州市戸畑区中原東3丁目10-17 808-0016 北九州市若松区原町9-6	093-881-8181 093-751-6528			脳外科 H1
旭 隆宏	874-0011 国立別府病院：大分県別府市大字内かまど1473 874-0011 大分県別府市大字内かまど1473 国立別府病院官舎R-6-5	0977-67-1111 0977-27-9555	x yusyusho@05.alphatec.or.jp		九大小児科 H2
白藤 智之	852-8125 聖フランシスコ病院：長崎市小峰町9-20 852-8151 長崎市泉1丁目3-4	095-846-1888 095-848-0191		shirafugi@sfh.or.jp	第1外科 H2
寺尾 保信	113-0021 東京都立駒込病院：文京区本駒込3-18-22 108-0074 東京都港区高輪2丁目1-55-604	03-3823-2101 03-3443-5034			慈恵大形成外科 H2
中村 晋	813-0042 中村内科医院：福岡市東区舞松原1丁目6-18 813-0036 福岡市東区若宮4丁目20-16 エテルナヒルズ若宮501	092-681-7363 092-662-4414		RYO-n@nn.ij4u.or.jp	H2
山本 太郎	606-8501 京都大学大学院医学研究科：京都市左京区吉田近衛町 606-8331 京都市左京区黒谷30-1 クレール岡崎201号	075-753-4355 075-762-5586		taro-y@pbh.med.kyoto-u.ac.jp	熱研社会環境 H2
生田 安司	852-8102 長大附属病院第1外科：長崎市坂本1丁目7-1 852-8022 長崎市富士見町10-25-302	095-849-7304 095-861-9733		yikuta@clin.medic.mie-u.ac.jp	第一外科 H3
市川 辰樹	852-8501 長大附属病院第1内科：長崎市坂本1丁目7-1 852-8125 長崎市小峰町14-3-601	095-849-7200 095-843-1470			第1内科 H3
鈴木 康弘	National Institute of Health Bidg.10, Rm5A11, 9000 Rockville Pike, Bethesda, MD 20892, U.S.A.	301-496-9238			熊大第2内科 H3
田中 邦彦	奈留病院 853-2201 南松浦郡奈留町浦郷1639-1 医師宿舎2号	0959-64-2014 0959-64-4160			第2外科 H3
山本 修	850-0015 山本外科医院：長崎市桜馬場1-9-20 850-0015 長崎市桜馬場1-9-20	095-823-8585 095-824-4600			第2外科 H3
劉 中誠	田川市立病院 825-0004 福岡県田川市桐ヶ丘6-2 組医師住宅2号	0947-44-2100 0947-45-4956			第1外科 H3
黒木 保	852-8102 長大附属病院第2外科：長崎市坂本1丁目7-1 852-8027 長崎市城山台1-42-11-403	095-849-7316 095-862-8052		koromoto@tt5.so-net.ac.jp	第2外科 H4
佐藤 俊一	380-0922 長野赤十字病院：長野市若里5丁目22-1 380-0922 長野市栗田202-1 カサフィーナA1-103	026-226-4131 026-228-3552		shunichi@eb.mbn.or.jp	信州大第3内科 H4
趙 成三	852-8102 長大附属病院麻酔科：長崎市坂本1丁目7-1 852-8065 長崎市横尾2-13-17 シティパレス横尾303	095-849-7370 095-856-3793		chos@net.nagasaki-u.ac.jp	麻酔科 H4
津田 純	229-1124 田名老人保健施設光生：相模原市田名7654-1 154-0016 世田谷区弦巻1-44-3 レジオン弦巻205号	042-763-1717 03-3439-7759			H4
中野 基	ハーバード大学医学部ボストン小児病院 33 Pond Avenue, #201 Brookline, MA.02445-7136, U.S.A.	1-617-355-5009 1-617-264-7999		mnakano@rascal.med.harvard.edu	形成外科 H4
福井 雅士	870-0022 大分中村病院：大分市大手町3-2-43 870-0022 大分市大手町3-2-37 第5さつきマンション806	097-536-5050 097-534-4799			形成外科 H4
南 恵樹	852-8102 長崎大学附属病院第2外科：長崎市坂本1丁目7-1 850-0951 長崎市国分町10-6	095-849-7370 095-824-5123			第2外科 H4
竹下 浩明	852-8102 長崎大学附属病院第1外科：長崎市坂本1丁目7-1 852-8102 長崎市坂本1丁目13-53-402	095-849-7370 095-844-3919		hiro-t@fsinet.or.jp	第1外科 H5
近藤 新二	800-0257 北九州総合病院形成外科：北九州市小倉南区湯川5-10-10 800-0257 北九州市小倉南区湯川5-7-7	093-921-0560 093-921-4416			形成外科 H6
斎藤 将隆	852-8102 長大附属病院集中治療部：長崎市坂本1丁目7-1 851-2127 長崎県西彼杵郡長与町高田郷60-1-401	095-849-7370 095-855-1496		parsifal@net.nagasaki-u.ac.jp	麻酔科 H6
阪上 学	565-0871 大阪大学微生物化学研究所：吹田市山田丘3-1 662-0976 兵庫県西宮市宮西町14-13 ファミール風川508	06-6879-8294 0798-37-1475		sakaue@ff.ij4u.or.jp	大阪大麻酔科 H6
松尾 敏明	650-0017 神戸大学医学部国際予防医学：神戸市中央区楠町7-5-1 651-2103 神戸市西区学園西町7-1 アクティ学園西町754号棟506号室	078-382-5111 078-794-0910		Toshiaki.Matsuo@ma5.seikyoku.ne.jp	神戸大国際予防医学 H6
岩井 敏郎	812-0054 九州大学附属病院心臓外科：福岡市東区馬出3丁目1-1 810-0054 福岡市中央区今川2丁目7-52-303	092-641-1151 092-737-3773		tiwai@heart.med.kyushu-u.ac.jp	九大心臓血管外科 H7
宗 英吾	852-8003 共立病院：長崎市旭町26-18 852-8061 長崎市滑石1丁目4-55 メゾンドソレイユ601	095-862-0001 095-857-5273			耳鼻科 H7
中桶 了太	852-8523 長崎大学医学部第1薬理学教室：長崎市坂本1-12-4 852-8123 長崎市三原町42-2 三原グリーンハイツ202	095-849-7043 095-846-6999		nakaoke-ngs@umin.ac.jp	第1薬理 H7
藤本 武士	852-8102 長大附属病院第1内科：長崎市坂本1丁目7-1 852-8061 長崎市滑石6-10-15	095-849-7262 095-856-7819		d397022z@stcc.nagasaki-u.ac.jp	第1内科 H7



安田恵多良	550-0015 大野記念病院	06-6531-1815		大阪大脳外科
	550-0015 大阪市西区南堀江 1-18-11-202	06-6531-3133	✕ Kayo-ts@zp3.so-net.ne.jp	H7
古賀 洋安	098-5204 北海道枝幸郡歌登町国民健康保険病院	01636-8-2341		久留米大小児科
	098-5204 北海道枝幸郡歌登町南町 403-60	01636-8-3881	✕ hirokko@mx6.tiki.ne.jp	H8
城田 利彦	812-0054 九州大学附属病院心臓外科：福岡市東区馬出 3 丁目 1-1	092-642-5557		九大心臓血管外科
	810-0062 福岡市中央区荒戸 2-2-5-803	092-751-7765		H8
関 徹	989-4703 宮城県登米郡石越町石越病院	0228-34-3211		東北大精神科
	981-0933 仙台市青葉区柏木 1-9-11-304	022-274-6311	✕ QWP07174@niftyserve.co.jp	H8
武野 正義	国立循環器病センター心臓内科	06-6833-5012		第 3 内科
	562-0026 大阪府箕面市外院 2 丁目 16-11-201 号	0727-26-8970		H8
福田 顕三	852-8102 長大附属病院第 2 外科：長崎市坂本 1 丁目 7-1	095-849-7316		第 2 外科
	852-8135 長崎市千歳町 5-26-1304	095-842-1158		H8
山里 昌司	825-8567 田川市立病院：福岡県田川市大字楠 1700-2	0947-44-2100		第 3 内科
	825-0002 福岡県田川市桐ヶ丘 1 組医師住宅 11-A	0947-45-3025		H8
岡 真一郎	857-0026 千住病院：佐世保市宮地町 5-5	0956-24-1010		第 2 内科
	857-0041 佐世保市木場田町 8-21-402 号	0956-25-8684		H9
岡田和一郎	420-0853 静岡日赤病院：静岡市追手町 8-2	054-254-4311		慶応大耳鼻科
	420-0043 静岡市川辺町 2-3-15-1003	054-221-8610		H9
牟田口 滋	849-0906 佐賀整肢学園：佐賀市金立 2215-27	0952-98-2211		九大整形外科
	849-0906 佐賀市金立 2215-27 職員寮 301 号			H9
大石 正雄	790-0024 愛媛県立中央病院形成外科：松山市春日町 83			形成外科
	790-0023 松山市末広町 8 県医師公舎 A-5		○ moishi999@hotmail.com	H10
古賀 聖士	859-040 長崎市立成人病センター：西彼杵郡多良見町化屋名 986-2	095-861-1111		第 2 内科
	850-0918 長崎市大浦町 9-36-207	095-811-3763	○	H10
崎元 暢	173-0032 日大附属病院：板橋区大谷口上町 30-1	03-3972-8111		日大眼科
	173-0036 板橋区向原 1-21-22 スカイフラッツボアヴェール 302	03-3554-9103	○ toruotto@mwe.biglobe.ne.jp	H10
山崎 励至	852-8102 長大附属病院原研内科：長崎市坂本 1 丁目 7-1			原研内科
	851-2127 西彼杵郡長与町高田郷 151-61	095-814-6446		H10
高橋 優二	852-8102 長大附属病院耳鼻科：長崎市坂本 1 丁目 7-1	095-849-7349		耳鼻科
	852-8131 長崎市文教町 12-3 ライオンズマンション 609	095-848-2841		H11
谷川 治	815-0032 九州中央病院：福岡市南区塩原 3-23-1	092-541-4936		九大第 2 外科
	815-0042 福岡市南区若久 1-32-16-601			H11
牧野 淳	成田赤十字病院	0476-22-2311		千葉大第 2 内科
	286-0041 千葉県成田市飯田町 22-9 エスカージ 201	0476-23-1305		H11
宮崎 浩充	857-0056 佐世保総合病院：佐世保市平瀬町 9-3	0956-24-1515		耳鼻科
	857-1151 佐世保市日字町 522-4 医師公舎 A-14	095-849-7349	✕ hiro-m@yg7.so-net.ne.jp	H11
山本 経之	816-0864 福岡徳州会病院：福岡県春日市須玖北 4-5	092-573-6622		形成外科
	816-0873 福岡県春日市日出町 4-40-305	092-572-9604	○	H11
吉野 俊平	820-0018 福岡飯塚病院：飯塚市芳雄町 3-83	0948-22-3800		飯塚病院
	820-0018 飯塚市芳雄町 3-83 飯塚病院研修医宿舎 410 号	0948-23-8590	○ syoshi26@aol.com	H11
澁谷 正樹	755-0067 山口大附属病院第 2 内科：山口県宇部市南小串 1-1-1	0836-22-2653		山口大第 2 内科
	755-0035 山口県宇部市西琴芝 2-736-5 A-2	0836-35-2248	✕ bc8-sby@asahi-net.or.jp	H12
土井 晋平	852-8113 長崎市上野町 20-21 サントスハイツ 403	095-848-6219		H12
福田 義文				神戸大精神科
	700-0806 岡山市広瀬町 13-16 本郷様方	070-5907-2677		H12
程野 茂樹	愛媛大学眼科			愛媛大眼科
	799-3111 愛媛県伊予市下吾川 676-1	0899-83-3504		H12
松永 祥志	北九州市立八幡総合病院	093-662-6565		脳外科
	805-0069 北九州市八幡東区前田 1-11-4 サンハイツ前田 1405			H12
及川 将弘	852-8102 長崎大学附属病院第 1 外科：長崎市坂本 1 丁目 7-1	095-849-7304		第 1 外科
	850-0036 五島町 10-4 林田ビル 403	095-832-4123		H13
森 創	852-8102 長崎大学附属病院小児科：長崎市坂本 1 丁目 7-1	095-849-7462		小児科
	852-8114 橋口町 14-17 アムロハイツ 301	095-844-3801		H13
ウイクアンロン	162-8666 東京女子医科大学病院：東京都新宿区河田町 8-1	03-3353-8111		女子医大日本心臓血圧研究所外科
	162-0054 東京都新宿区河田町 7-18 坂本ビル 301 号	090-9408-8805		H13

公本	周平	852-8102 長崎大学附属病院麻酔科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7370	麻酔科
		852-8133 本原町9-22 ユースハイツ101	095-849-2815	H13
者藤	陽一	852-8102 長崎大学附属病院脳外科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7465	脳外科
		852-8112 本尾町16-13 プロミネント本尾103	095-849-6149	H13

# 長崎大学医学部現役部員名簿

学年	氏名	住 所	第1電話番号	第2電話番号	学籍番号	出身校	帰省先電話番号
6	蓬萊 彰士	平野町8-23 パークサイド平野町202		090-1369-5720	394127	修猷館	092-714-2456
	青山 英和	岡町Y's OKAMATI302	842-1358	090-7549-9696	396001	山口	0567-32-2553
	西條 知見	本原町39-17 マルカ本原202	848-9751	090-2781-8910	396026	徳島文理	088-692-5592
	高木 理博	上野町7-17AT ビル103	842-2944		396034	小倉	093-962-9751
	田辺 孝大	三原町1466 ヴィラ・デル・ノンノ平川101	848-4449	090-9604-7079	396040	山口	08375-2-4269
	渡辺 庸平	江里町14-25 ステイシー江里301	849-2875	090-7549-9602	396150	磐城	0246-22-0733
5	崎元 晋	本尾町フォレストビル3	846-0290	090-8916-2872	397035	鹿児島修学館	099-225-2495
4	猪狩 圭介	横尾2-2-5	857-2205	090-1926-1655	397006	長崎北陽台	前記
	田浦 康明	平和町9-2 森川ビル402	847-7336	090-3736-0492	397041	泰星	092-323-2068
	山口 仁平	西彼杵郡時津町西時津1000-109	882-9002	090-8406-4592	397146	長崎北陽台	前記
	近藤 学	竹の久保町1-5	862-0032	090-1082-3543	398039	明治学園	0832-45-6633
	豊田 啓介	平和町26-20 三愛ビル3.202	843-3847	090-7150-6905	398111	国東	0978-68-0511
	吉武 記一	坂本1-3-3 ライムカンII 104	849-6617	090-9407-6316	398147	防府	0835-29-0363
3	小河原大樹	住吉町4-7-401		090-4518-3683	397018	東筑紫学園	093-473-6724
	未下 雅也	平和町2-8-201	848-2990	090-9599-0007	398045	青雲学園	0959-72-6415
	山道 忍	上浦町112	841-0756	090-4589-9626	398144	長崎北	前記
	高田 潤	小峰町14-17 タウニー秀月202		090-8229-0599	399045	高槻	0726-88-1296
2	和佐野喜也	家野町5-9 黒田アパート2F	843-0341		398150	佐賀西	0952-30-3295
	荒木孝太郎	虹ヶ丘町15-3		090-7152-2717	300002	長崎北	
	夏田 孔史	橋口町2-6 川道ビル201		090-7169-3308	300115	宮崎西	0985-52-0267
	冬野 誠也	本原町1-3 シルキーホームズ501号	847-6757	090-2514-6891	300129	弘学館	0955-74-7378

## 編集後記

本誌発刊にあたり、様々な方から御指導、御協力を頂き、何とか完成に「漕ぎ」着けることが出来ました。心より感謝致します。

今回の部誌は、前年度の部誌をベースとして製作しました。前年度打ち込まれたデータが保存されており、大変役に立ちました。来年又部誌を作る時にも作業はしやすいと思います。また、原稿をメールやフロッピーで提出してもらうことで、打ち込みによる時間を省くことが出来ました。それでも、今年もまた発行が遅れてしまったのは色々理由がありますが、根本的には取り掛かりが遅かったという事だと思えます。特に住所調べは、まずやらなければならぬことなのですが、今年はこの住所調べに、年明けまでかかっていたというのが最も反省すべき点です。来年はこの失敗が生かされることを願います。

内容については、形式は去年と比べ特に目新しい所はあ

りませんが、特集をなるべく多く盛り込んでみました。特に近年いわれ続けている「体格の差」に対する対策として、食事の取りかたをまとめてもらいました。この資料については現役部員はみんなもっているものだと思いますが、部誌に載せることで将来、同じ問題に悩む後輩に役立ってくれば幸いです。

最後になりましたが、本誌は御好意をもって協賛して頂いた会社からの御援助によって製作されております。ここに改めてお礼申し上げます。

編集責任 高木 理博

# 祝 「漕魂」 23号発行

## 一ザイ株式会社

長崎市万才町6-38 明治生命ビル4F  
〒850-0033 ☎ 095-827-1131

## 大日本製薬株式会社

長崎市万才町8-22 長崎朝日ビル6F  
〒850-0033 ☎ 095-821-8412

## 大塚製薬株式会社

長崎市油木町11-5  
〒852-8035 ☎ 095-846-7302

## 田辺製薬株式会社

長崎市西坂町2-3 長崎駅前第一生命ビル3F  
〒850-0051 ☎ 095-824-3843

## 小野薬品工業株式会社

長崎市出島町1-14 出島朝日生命青木ビル8F  
〒850-0862 ☎ 095-822-8271

## 中外製薬株式会社

長崎市西坂町2-3 長崎駅前第一生命ビル7F  
〒850-0051 ☎ 095-825-4772

## 研製薬株式会社

長崎市城山町18-9 城山ビル3F  
〒852-8021 ☎ 095-861-3911

## 富山化学工業株式会社

長崎市五島町5-48 長崎船用品ビル3F  
〒850-0036 ☎ 095-821-7269

## ネボウ薬品株式会社

東京都港区海岸3-20-20  
〒108-8080 ☎ 03-5446-3300

## 日本ロシュ株式会社

長崎市興善町6-5 長崎興善町東邦生命ビル9F  
〒850-0032 ☎ 095-822-2422

## 杏林製薬株式会社

長崎市賑町7-12 熊銀不動産ビル7F  
〒850-0876 ☎ 095-820-3441

## ノバルティス ファーマ株式会社

長崎市中町1-26 住友生命長崎中町ビル4F  
〒850-0055 ☎ 095-827-3600

## 協和発酵工業株式会社

長崎市西坂町2-3 長崎駅前第一生命ビル6F  
〒850-0051 ☎ 095-822-8514

## バイエル薬品株式会社

長崎市宝町5-5 平田ビル6F  
〒850-0045 ☎ 095-846-5009

## 大鵬薬品工業株式会社

長崎市油木町11-5  
〒852-8035 ☎ 095-847-2243

## 萬有製薬株式会社

長崎市興善町4-5 日本団体生命長崎ビル6F  
〒850-0032 ☎ 095-823-7141

## 式田薬品工業株式会社

長崎市目覚町5-2  
〒852-8105 ☎ 095-845-8484

## ファイザー製薬株式会社

長崎市中町1-26 住友生命長崎中町ビル8F  
〒850-0055 ☎ 095-827-2443

## 第一製薬株式会社

長崎市西坂町2-3 長崎駅前第一生命ビル2F  
〒850-0051 ☎ 095-826-8050

他、多数のメーカー様の協賛  
有難うございました

名簿の内容を以下のように訂正します。

氏名 \_\_\_\_\_ 年卒 \_\_\_\_\_

現住所 \_\_\_\_\_

勤務先 \_\_\_\_\_

～通信欄～

【お願い】

毎回、住所録の不備についての苦情を耳に致します。私どもといたしましてもできる限りの努力をしておりますが、特に若いドクターを中心として異動の多い季節に発行するという时期的な問題もあり必ずしも完璧を期し難いのが現状です。

つきましては、氏名・住所・電話番号・勤務先等に変更または誤りがございましたら、上記のハガキにて長崎大学医学部漕艇部まで御通知下さい。

また、通信欄には、ボート部に対する要望や、「漕魂」に対する感想など書いて頂ければ幸いです。

工

大

小

科

方

杏

協

大

部

会